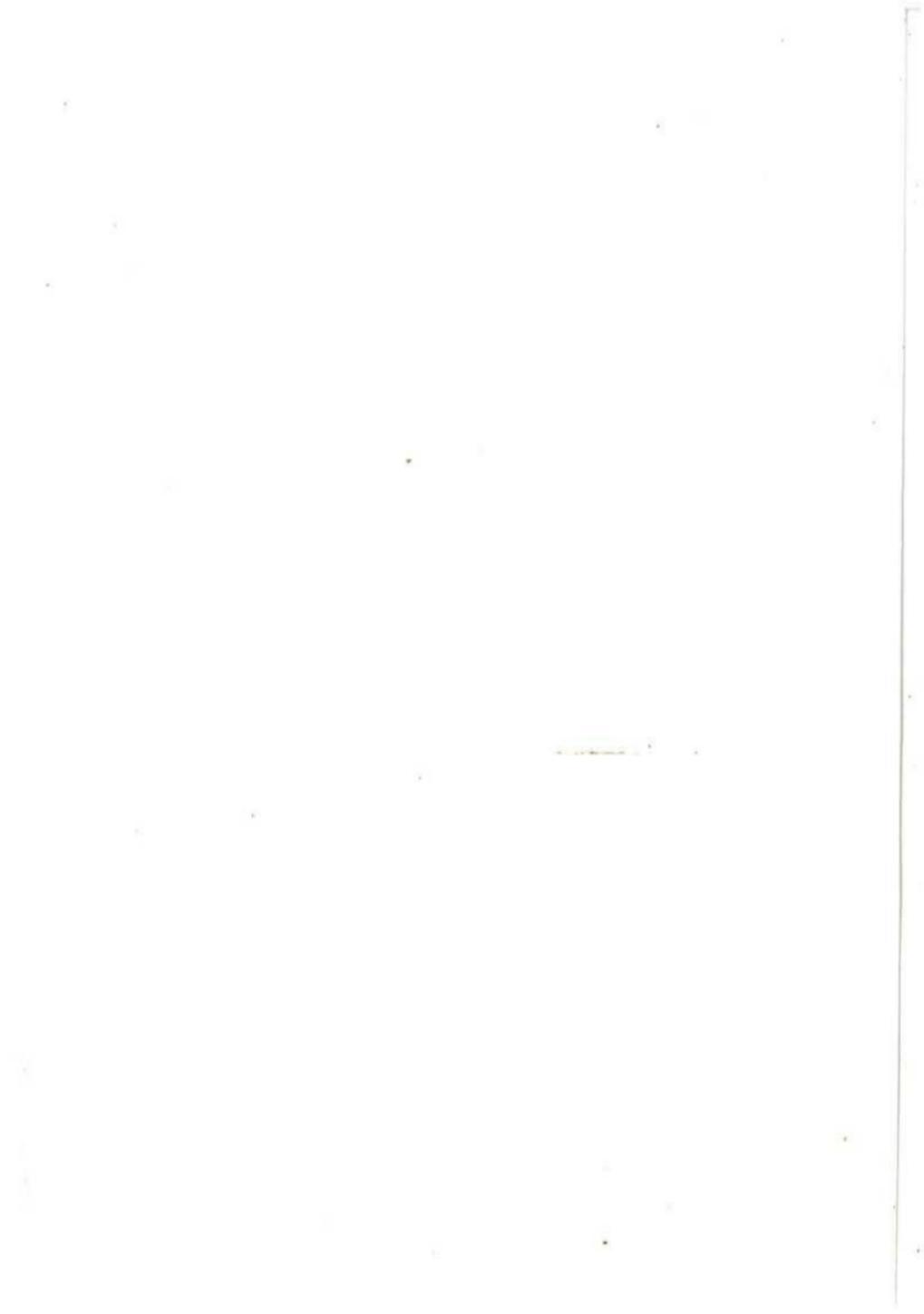


# 地 蔵 堂 遺 跡

—農地総合開発整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

1995年3月

掛川市教育委員会







# 地 蔵 堂 遺 跡

－農地総合開発整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

## 例　　言

1. 本報告書は静岡県掛川市八坂字宮ノ前672-2外に計画されている農地総合開発整備事業地内に存在する地蔵堂遺跡の発掘調査記録である。遺跡名は掛川市教育委員会編『掛川市遺跡地図』(平成5年度)による。

2. 本調査については静岡県教育委員会文化課の指導のもとに「地蔵堂遺跡発掘調査連絡会」を設置し、連絡会において発掘方法等の協議を行いながら調査を進行した。

「地蔵堂遺跡発掘調査連絡会」の構成は以下の通りである。

・調査指導機関	静岡県教育委員会
・調査主体者	掛川市教育委員会
・調査事務局	掛川市教育委員会社会教育課
・調査担当者	掛川市教育委員会 学芸員
	前田 庄一
	静岡人類史研究所 調査部長
	片平 剛
	静岡人類史研究所 学芸員
	小谷 亮二

3. 発掘調査は平成6年11月14日より平成7年2月28日まで実施した。また、遺物の整理と報告書の作成は平成7年3月1日より平成7年3月25日まで実施した。

4. 遺物の実測およびトレースは田中久美子（静岡人類史研究所学芸員）が、写真の撮影は片平 剛・小谷亮二が行い、空中写真的撮影は株式会社東日に委託した。また、科学分析は株式会社古環境研究所に委託した。

5. 原稿の執筆は、前田庄一（掛川市教育委員会、第Ⅰ章）、小谷亮二（第Ⅱ章・第Ⅲ章）、小谷・片平 剛（第Ⅳ章・第Ⅴ章）が分担し、編集は小谷が行った。

6. 本調査における図面・写真・遺物・コンピュータにより処理したデータはすべて掛川市教育委員会で保管している。

7. 発掘調査および遺物整理参加者

・調査員 前田庄一・片平 剛・小谷亮二

・発掘調査作業員

伊藤正夫 宮崎昭太郎 山崎祐代 戸田増男 佐藤栄吉 岡田辰雄 田辺富士夫  
山崎美智子 伊藤とよ 井筒いつよ 岡田あき 鈴木とし 久保井美代子 西田泰子  
岡田あき江 岡田あい 横葉かよ

・遺物整理 田中久美子

8. 本書における遺構・遺物の表示は以下の通りである。

①遺構挿図の方位

各遺構の北（磁北）は方位記号で示した。

②写真図版の縮尺

遺構・遺物の縮尺は任意である。

③断面図の水系レベルは海拔高を示し、単位はメートル（m）である。

④スクリントーンおよびシンボルマーク

I . スクリントーン



擾乱



施釉範囲

II . シンボルマーク

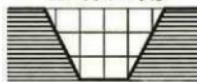
- 土器片

⑤造構の断面形状（長径または長軸に対する断面）の表現は下の図に基づくものである。

U字形



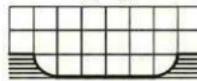
上に開くU字形



上に広く開くU字形



皿状





## 目 次

## 例 言

第Ⅰ章 発掘調査に至る経緯 .....	1
第Ⅱ章 遺跡の立地と歴史的環境 .....	2
第1節 遺跡の立地 .....	2
第2節 歴史的環境 .....	4
第Ⅲ章 発掘調査の概要 .....	6
第1節 調査方法 .....	6
第2節 発掘調査の経過 .....	7
第3節 遺跡の層序 .....	8
第Ⅳ章 発掘調査の結果 .....	10
第1節 溝状遺構 .....	10
第2節 穴状遺構と遺物 .....	23
第3節 その他の遺構と遺物 .....	34
第Ⅴ章 発掘調査の成果と課題 .....	42
参考文献 .....	44

## 付表 遺物観察表

## 写真図版

## 挿図目次

第1図	地蔵堂遺跡の位置	2
第2図	地蔵堂遺跡周辺の地形区分図	2
第3図	地蔵堂遺跡周辺の地質図	3
第4図	地蔵堂遺跡周辺の遺跡分布図	5
第5図	調査対象地のグリッド設定図	6
第6図	地蔵堂遺跡の基本層序模式図	9
第7図	造構分布図	10
第8図	溝分布図	11
第9図	第1号溝の平・断面図および遺物分布図	11
第10図	第1号溝の出土遺物実測図	12
第11図	第2号溝の平・断面図および遺物分布図	12
第12図	第2号溝の出土遺物実測図	12
第13図	第3号溝の平・断面図および遺物分布図	13
第14図	第3号溝の出土遺物実測図	13
第15図	第4号溝の平・断面図および遺物分布図	14
第16図	第4号溝遺物出土状況図	14
第17図	第4号溝の出土遺物実測図（1）	15
第18図	第4号溝の出土遺物実測図（2）	17
第19図	第5号溝の平・断面図および遺物分布図	20
第20図	第6号溝の平・断面図	21
第21図	第7号溝の平・断面図および遺物分布図	21
第22図	第7号溝の出土遺物実測図	22
第23図	第8号溝の平・断面図	22
第24図	第9号溝の平・断面図および遺物分布図	22
第25図	穴状造構分布図	23
第26図	土坑分布図	23
第27図	第1号土坑の平・断面図	24
第28図	第2号土坑の平・断面図および遺物分布図	24
第29図	第3号土坑の平・断面図	24
第30図	西側穴状造構の分布図	25
第31図	第1号掘立柱建物跡の平・断面図および遺物分布図	26
第32図	第1号掘立柱建物跡の遺物実測図	26
第33図	第1号柱穴列の平・断面図	27
第34図	第2号柱穴列の平・断面図	27
第35図	第3号柱穴列の平・断面図	28
第36図	第1・2号板塀跡の平・断面図および遺物分布図	29
第37図	第1・2号板塀跡の出土遺物実測図	30
第38図	東側穴状造構の分布図	30
第39図	第4・5号柱穴列の平・断面図	31
第40図	自然木分布図	34
第41図	a 地点の加工痕のある木製品（左下）の出土状況図	35

第42図 b 地点の自然木出土状況図.....	35
第43図 c 地点の自然木出土状況図.....	36
第44図 d 地点の自然木出土状況図.....	36
第45図 溝池状遺構分布図.....	37
第46図 第1号溝池状遺構平・断面図および遺物分布図.....	38
第47図 第2号溝池状遺構平・断面図.....	38
第48図 グリッドから出土した遺物実測図.....	39
第49図 排水溝から出土した遺物実測図(1).....	40
第50図 排水溝から出土した遺物実測図(2).....	41

## 表目次

第1表 ピット群一覧表(1).....	32
第2表 ピット群一覧表(2).....	33

## 写真図版目次

1. 遺跡の全景 .....	1
2. 第1号溝 .....	1
3. 第3・4・5・9号溝・第1号溜池 .....	2
4. 第4号溝遺物出土状況 .....	2
5. 第6・7号溝 .....	3
6. 第1号掘立柱建物跡・第1・2号板塀跡 .....	3
7. 第1～3号柱穴列 .....	4
8. 第4・5号柱穴列 .....	4
9. 自然木出土状況(a地点) .....	5
10. 自然木出土状況(c地点) .....	5
11. 第1号溝出土遺物 .....	6
12. 第2号溝出土遺物 .....	6
13. 第3号溝出土遺物 .....	6
14. 第4号溝出土遺物(1) .....	6
15. 第4号溝出土遺物(2) .....	7
16. 第1号掘立柱建物跡出土遺物 .....	7
17. 第2号板塀出土遺物 .....	7
18. グリッド出土遺物 .....	7
19. 排水溝出土遺物 .....	7



## 第Ⅰ章 発掘調査に至る経緯

平成3年5月20日付けで静岡県中遠農林事務所から掛川市教育委員会に、掛川市東山口地内で計画される農地総合開発整備事業用地内における埋蔵文化財の所在の有無について照会があった。

この照会を受けて掛川市教育委員会が、平成3年7月5日に現地を踏査したところ、これまで遺跡と考えられていなかった当該地において土器を採取した。

そこで、同年9月4日に掛川市教育委員会・静岡県教育委員会・中遠農林事務所・掛川市役所農村整備課・地元土地改良区代表の5者で協議した結果、平成4年の1月から2月にかけて確認調査を実施することとなった。

掛川市教育委員会が、平成4年1月20日から3月25日までの間と同年11月20日から平成5年3月25日まで確認調査を実施した。これにより、奈良時代から鎌倉時代にいたる遺構と遺物を確認した。

平成5年5月12日、掛川市教育委員会・静岡県教育委員会・中遠農林事務所・掛川市役所農村整備課・地元土地改良区代表の5者で地蔵堂遺跡の取り扱いについて協議した。その結果、圓場部分については地下の埋蔵文化財に影響を与えない工法で工事を実施して遺構を保存し、新設の道路・排水路敷について本調査を実施することとなった。

平成6年1月18日、中遠総合庁舎において掛川市教育委員会・静岡県教育委員会・中遠農林事務所・掛川市役所農村整備課の4者で地蔵堂遺跡の発掘調査時期等について協議した。そのなかで、中遠農林事務所から平成6年度中に発掘調査を実施してもらいたいとの要請があった。

同年4月10日、東山口地区宮村公民館において掛川市教育委員会が出席し、地元民を対象にして、本調査の時期等についての説明会を実施した。

同年6月10日、掛川市教育委員会・静岡県教育委員会・中遠農林事務所・掛川市役所農村整備課の4者が協議した結果、平成6年10月の稻の刈り入れ後に発掘調査を実施することになった。

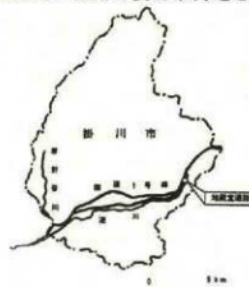
## 第II章 遺跡の立地と歴史的環境

## 第1節 遺跡の立地

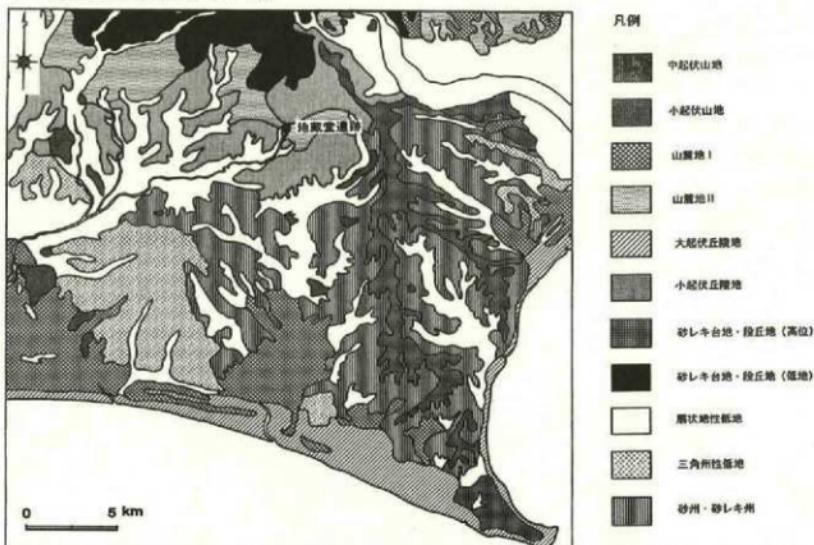
地蔵堂遺跡は掛川市の東端部に位置し、遺跡の西側は一般国道1号線が北から南に走り、遺跡の北東側から流下する逆川は遺跡の中央部東側で南西方向に流路を変え市街地を経て、袋井市東端部で原野谷川と合流している。



第1図 地蔵堂遺跡の位置



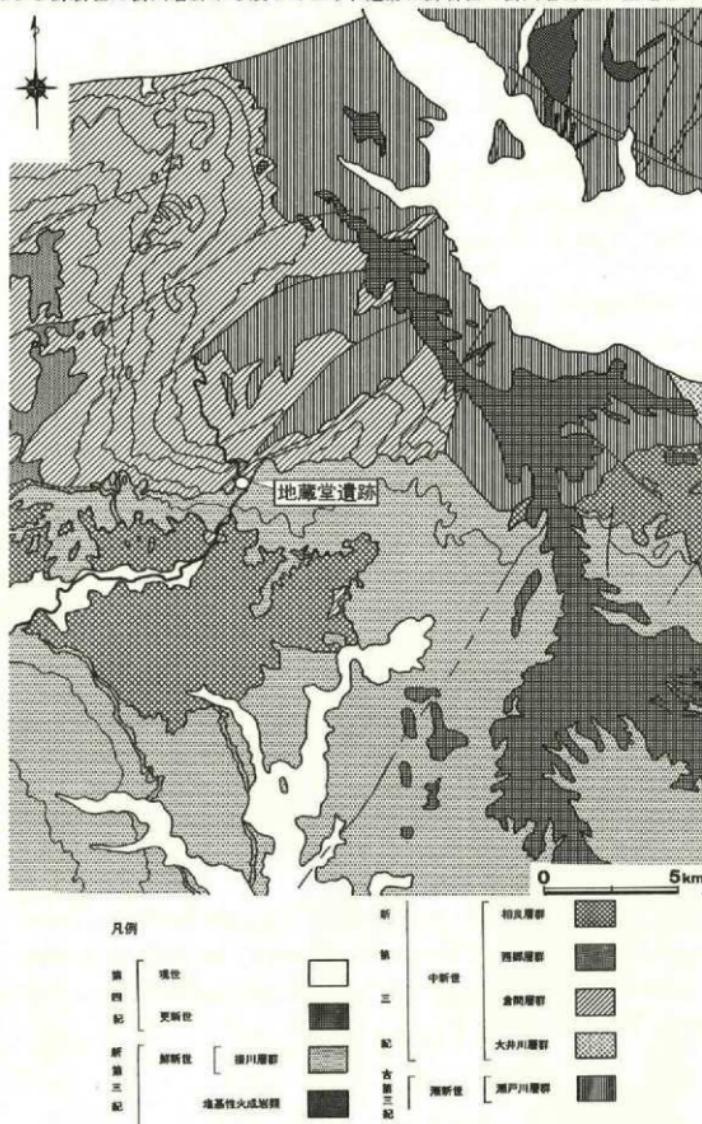
地蔵堂遺跡の周辺の地形は第2図に示す通り、遺跡の周囲は起伏量（地表の最高点と最低点の高度差）が200~100mの山麓地Ⅰに囲まれ、さらにその周囲には起伏量が100m以下の山麓地Ⅱが続いている。一方、北側には起伏量400~200mの小起伏山地、起伏量600~400mの中起伏山地が分布し、東側には高位の砂礫台地・段丘地（牧ノ原台地）、それを取り囲むようにして新第三紀層から成る大起伏丘陵地が分布し、南側には断片的に低位の砂礫台地・段丘地が分布している。地蔵堂遺跡は起伏の緩やかな標高50~52m前後の扇状地性低地、いわゆる谷底平野に位置している。



第2図 地蔵堂遺跡周辺の地形区分図

資料：土地分類図（静岡県）1991

地蔵堂遺跡の周辺の地質は第3図に示す通り、新第三紀下部の倉間層群、西郷層群、相良層群および鮮新世の掛川層群から成っており、遺跡は鮮新世の掛川層群上に立地している。



第3図 地蔵堂遺跡周辺の地質図

## 第2節 歴史的環境

地蔵堂遺跡の所在地は八坂宇宮ノ前と呼ばれ、南西方向に開析する逆川の谷底平野には水田が多く、周囲の丘陵や段丘は茶園の多い農村地帯である。

本遺跡の周囲には、縄文時代早期から江戸時代に至る遺跡が存在している。また、周辺地域は文献史料にも比較的多くの記述が残っており、「雄鶴山・雌鶴山」・「嫁田・姑の畑」など説話の多い地域でもある。

牛岡遺跡は縄文時代前期～晩期と奈良時代から近世まで継続的に営まれた遺跡で、中世の遺構としては掘立柱建物跡・溝状遺構・遺物としては山茶碗・青磁・白磁が出土している。

頭地遺跡は奈良時代から鎌倉時代にかけての遺跡で、灰釉陶器・山茶碗・土師器片が出土している。

また、事任八幡宮は807年（大同2）に坂上田村麻呂が勅を奉じて再興したと伝えられ、「文徳実録」によれば850年（嘉祥3）に從五位下を授かったとの記録が、さらに『延喜式』には927年（延喜5）「己等乃麻知神社」という記載が見られる。その他『枕草子』や鎌倉時代の『東閣紀行』等多くの文献に記載されている。

諏訪窯跡は平安時代の窯跡で、昭和27年度発掘調査が行われているが、詳細については不明である。

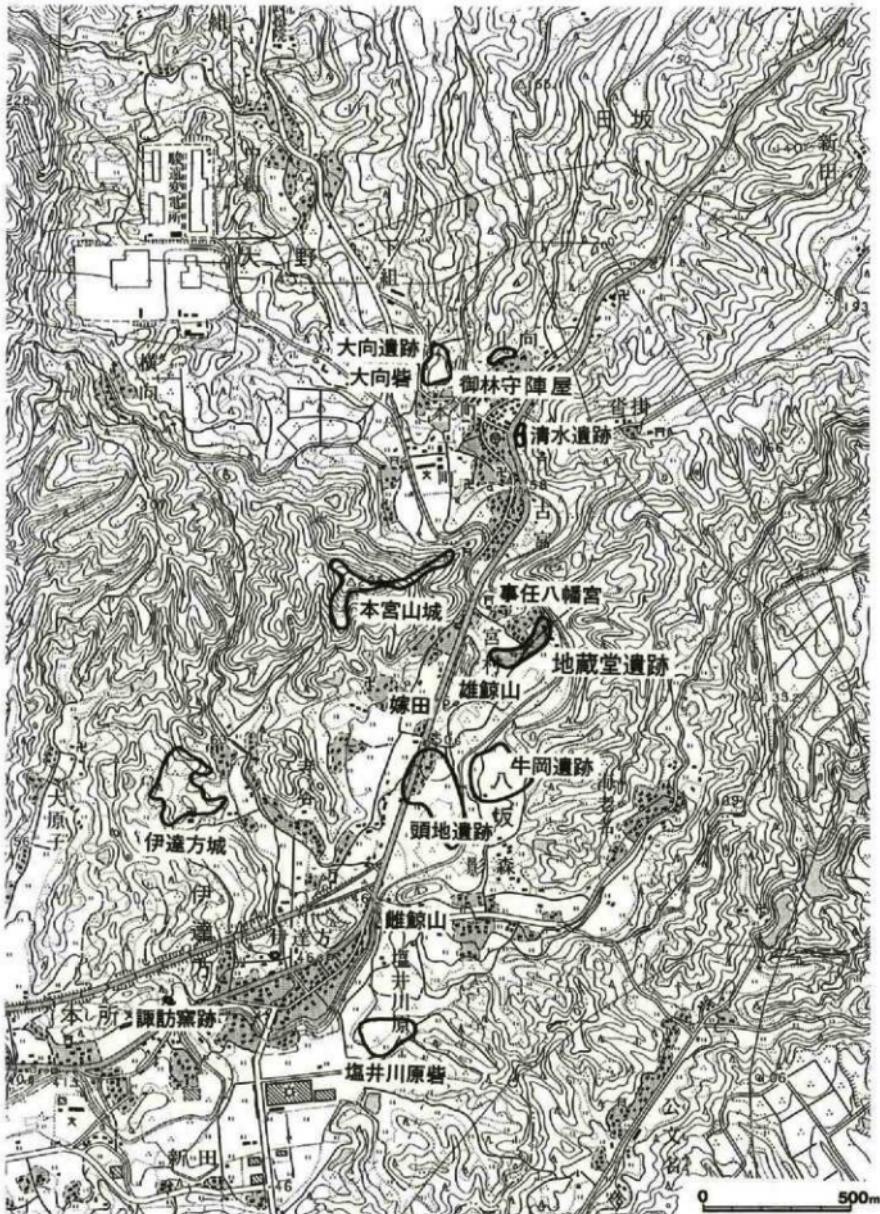
清水遺跡は平安時代から江戸時代にかけての遺跡で掘立柱建物跡・井戸・礎石などが確認されており、遺物は灰釉陶器・山茶碗・近世陶磁器・漆器・かわらけ・下駄・箸状木製品・錢貨等が出土しており、近世の日坂宿とそれ以前の集落跡が確認されている。

大向遺跡・大向砦は中世から近世にかけての城館跡であるといわれているが、詳細については不明である。

伊達方城は『掛川誌稿』に「慶雲寺の地は旧伊達藤殿助と言人の古墟なるよし。天文の初めには伊達氏も断絶し、禪院となりしと見えて…」とあり、慶雲寺が建立される前に山城として存在していたことが判る。掘切で分断された屋根の最頂部に主曲輪があり、土壘も残っている。主曲輪の南側は慶雲寺の境内になっている。

塩井川原砦は『武徳編年集成』の永禄12年9月条に「塩井原ノ砦」と記載されている。永禄11年(1568)に領国支配の抗争に破れ、朝比奈氏が守る掛川城に逃れた今川氏を攻めるため、徳川家康が築いた砦の一つである。

日坂御林守（おはやしのもり）陣屋は正徳2年(1712)岩佐太夫（後政右衛門と改む）が掛川城主小笠原巣岐守長熙から幕府の山（御林）を管理、保護する役職に命ぜられ、元文年間に日坂宿の北側の逆川右岸に陣屋を建て、その後宝暦6年12月再建している。現在陣屋跡は宅地に、堀は水田や畑となっている。



第4図 地蔵堂遺跡周辺の遺跡分布図

### 第III章 発掘調査の概要

#### 第1節 調査方法

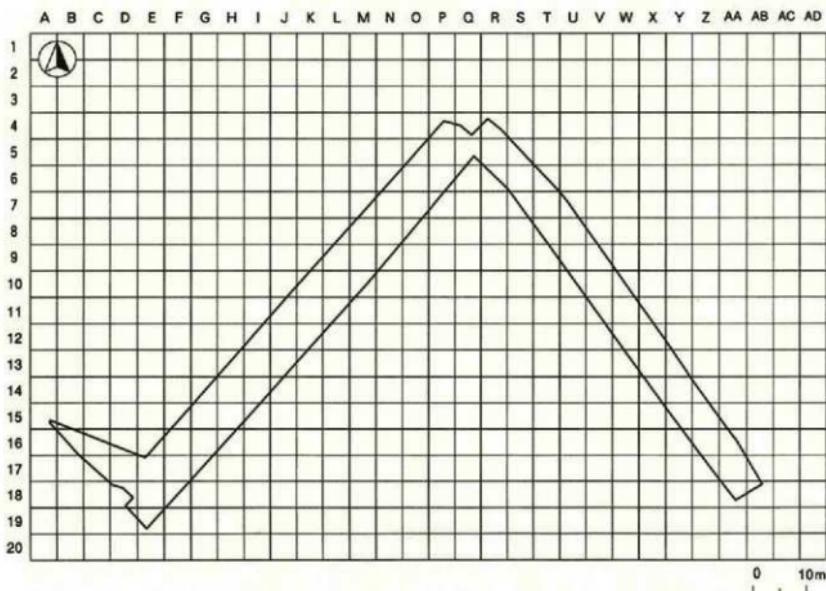
調査対象地区（約1,780 m<sup>2</sup>）の表土を重機により排除した後、作業員を導入して調査地の周囲に排水溝（幅・深さ約50 cm）をめぐらせ、3ヶ所に水中ポンプを設置し調査地内の水位を下げた。その後調査区全体に5 m×5 mグリッドを設定した。

各グリッドは、東西方向は西から棟の順にアルファベットのA～Z、AA～AD、南北方向は北から南の順に数字の1～20を付し、グリッド名とした。

全面精査によって遺構および遺物の確認を行い、確認された遺構や遺物については実測図（平面図・断面図・遺物の出土状況図等）を作成し、写真撮影を行った。なお、排土はベルト・コンベヤを使用し調査地外へ搬出する方法をとった。

さらに下層は、排水溝の掘り下げ時およびテスト・ピットで遺構や遺物が確認された場合は上層と同様の処理を行い、遺構や遺物が確認されず無遺物層と判断された場合はその無遺物層を重機により除去した後、再度周囲に排水溝をめぐらせ当該層の全面精査を実施し、遺構および遺物の有無を確認し、確認された遺構や遺物に関しては記録をとった。

なお、遺構および遺物の記録には光波測距儀とパソコン・コンピュータを組み合わせたトータル・ステーション・システム（遺跡図形処理システムソフト）を導入した。



第5図 調査対象地のグリッド設定図

## 第2節 発掘調査の経過

地蔵堂遺跡の現地調査（準備および発掘調査）は平成6年11月14日より平成7年2月28日まで実施した。以下にその経過を略記する。

11月14日（月）発掘対象区域の範囲を確定した後、重機による表土剥ぎと、一部作業員による作業も開始する。

11月21日（月）排水溝を掘り終り、西地区（A～Qグリッド）の精査を始める。

11月25日（金）M～Qグリッドの精査を開始する。

11月28日（月）Rグリッド以東の精査を開始する。

12月2日（金）F～Lグリッドの精査を開始する。

12月5日（月）H～Kグリッドで穴状遺構のプランが多数確認されたため掘り下げを開始する。

12月6日（火）E-19・20、F-19グリッド、S～Wグリッドの精査を開始する。H～Kグリッドの穴状遺構の掘り下げを引き続き行う。

12月13日（火）N～Uグリッドの無遺物層を重機で掘り下げる。H～Kグリッドの再精査を行う。

12月14日（水）I～Nグリッドの精査を開始する。

12月19日（月）E-19・20、F-19グリッド、F～Vグリッドの精査を開始する。

12月21日（水）Q～Vグリッドの精査を開始する。

1月5日（木）S～Yグリッドの精査を開始する。

1月12日（木）W～Rグリッドに、排水溝に平行するものと、Qグリッドに直交するサブトレレンチを設定し、下層の確認を行う。

1月13日（金）H～Mグリッド、Wグリッドの再精査を行う。午後連絡会を行う。

1月17日（火）A～Eグリッドの精査、H～Mグリッドの再精査を行う。Q～Rグリッドのサブトレレンチの拡張と深掘りを行い、新たにOグリッドまでサブトレレンチを拡張する。

1月18日（水）A～Eグリッドの精査、H～Kグリッドの穴状遺構の掘り下げを開始する。

1月25日（水）S～Vグリッド、H～Mグリッドの精査とJ-15、I-16、H-15グリッドにサブトレレンチを設定し掘り下げる。

1月27日（金）Vグリッド以東の精査とO～Rグリッドの精査を行う。

2月1日（水）Kグリッドから布掘りと思われるプランを確認し、掘り始める。

2月10日（金）株式会社東日による航空写真撮影を行う。

2月15日（水）重機により、下層の状況を確認するためのトレレンチを設定し、掘り始めるトレレンチの壁面のセクションを引くための壁削り、炭化木の確認を始める。

2月28日（火）株式会社古環境研究所により分析用サンプルの採取が行われる。トレレンチの壁面のセクション図面取りを終了し、本日で現場の作業を終了する。

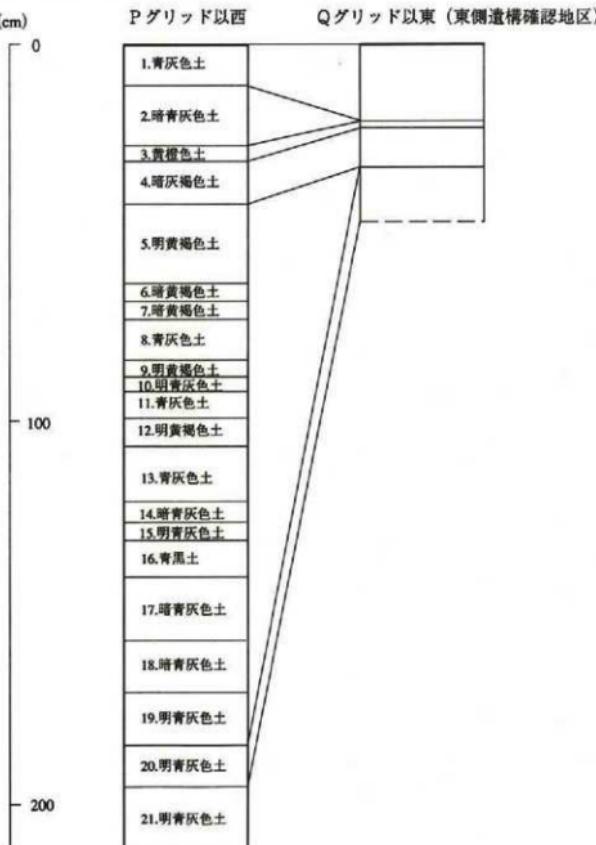
## 第3節 遺跡の層序

地蔵堂遺跡は畑作・水田耕作などによる削平を受けていたため一部層序が異なっているが、基本的な層序関係は以下の通りである。なお、層厚は層序が安定している位置での平均的な厚さである。

## 基本層序

- 第1層 青灰色土。現耕作土。層厚は20cm。
- 第2層 暗青灰色土。旧耕作土。層厚は10cm。
- 第3層 黄橙色土。マンガンを多く含んでいる。層厚は5cm。
- 第4層 暗褐灰色土。炭化粒を含む。粘性も締まりもやや弱い。層厚は15cm。上面が溝状遺構の確認面。
- 第5層 明黄褐色砂質土で、橙色の鉄分を少し含み、径1~2mm大の炭化粒を少し含む。粘性も締まりも弱い。層厚は10~20cm。Pグリッド以西において、この層の上面が遺構の確認面。
- 第6層 暗黄褐色土（粘土質）で、第5層より暗い色を呈し、第5層の明黄褐色土（砂質）をブロック状に少し含む。第5層と同様に鉄分・炭化粒を含む。粘性はやや弱く、締まりはやや強い。層厚は5~10cm。
- 第7層 暗黄褐色砂質土。第6層と同色であるが、第6層に比べ鉄分が少なく、炭化粒を含まない。層厚は5cm。
- 第8層 青灰色土で、第6層より暗く、第5層の明黄褐色土（砂質）は含まない。鉄分・炭化粒をやや多く含む。粘性はやや強く、締まりは強い。層厚は10cm。
- 第9層 明黄褐色土で、鉄分を多く含み、径0.5~1mm大の炭化粒を少量含む。粘性はやや強く、締まりは強い。層厚は5~10cm。
- 第10層 明青灰色土で、第6層と同様に第5層の明黄褐色土（砂質）を所々に含み、炭化粒が集中している箇所がある。粘性はやや弱く、締まりはやや強い。層厚は3~8cm。
- 第11層 青灰色砂質土で、第8層と同色である。鉄分・炭化粒の含み方は第6層と同じである。粘性はやや弱く、締まりはやや強い。層厚は3~25cm。
- 第12層 明黄褐色砂質土で、第5層より明るい。鉄分を万遍なく含む。水田耕作面の直上層と思われる。粘性はやや弱く、締まりはやや強い。層厚は3~15cm。
- 第13層 青灰色土で、鉄分をまだらに多く含み、炭化粒も少し含む。水田耕作面と思われる。粘性も締まりも強い。層厚は10~15cm。
- 第14層 暗青灰色土で、全体に万遍なく炭化粒を含み、特に上部に多く含む。粘性はやや弱く、締まりは強い。層厚は5~10cm。
- 第15層 明青灰色砂質土。鉄分・炭化粒はほとんど含まない。粘性はやや弱く、締まりは強い。層厚は2cm~10cm。
- 第16層 青黒土で、径1~2mm大の炭化粒を少し含む。粘性も締まりもやや強い。層厚は5~20cm。

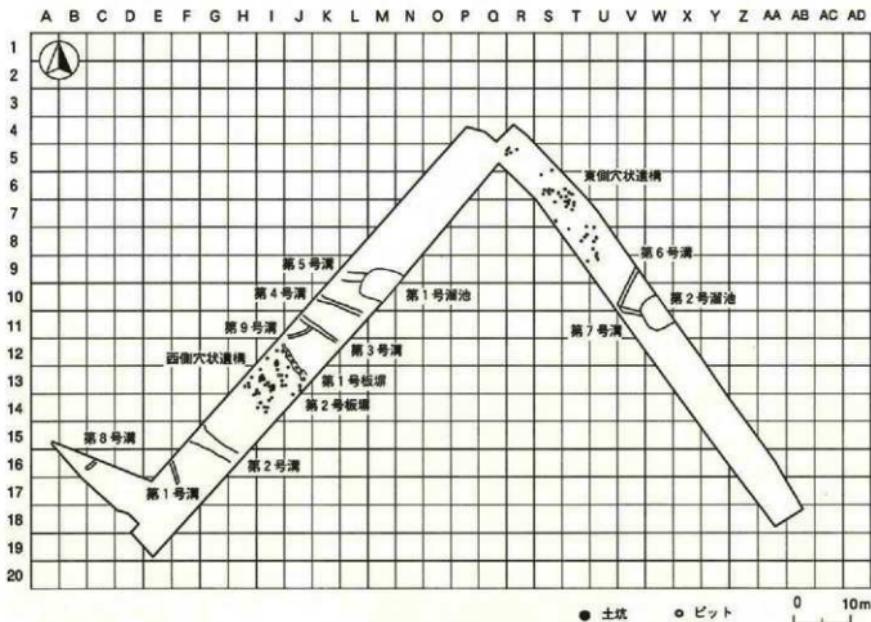
- 第17層 暗青灰色土。径1mm以下の炭化粒を若干含む。台6層と第18層の間にレンズ状に入っている。粘性はやや弱く、締まりはやや強い。層厚は10cm。
- 第18層 暗青灰色土で、第16層の青黒土がまだらに含まれる点が第17層と異なる。層厚は5cm~15cm。
- 第19層 暗青灰色土。径0.5~1cm大の炭化粒を含む。粘性はやや弱く、締まりはやや強い。層厚は5~20cm。Qグリッド以東において、この層の上面が遺構の確認面。
- 第20層 暗青灰色土。鉄分・炭化粒は含まない。粘性は弱く、締まりはやや強い。層厚は5~10cm。
- 第21層 明青灰色土。鉄分・炭化粒は含まない。粘性は強く、締まりはやや強い。この層の中で自然遺物が確認された。



第6図 地蔵堂遺跡の基本層序模式図

## 第IV章 発掘調査の結果

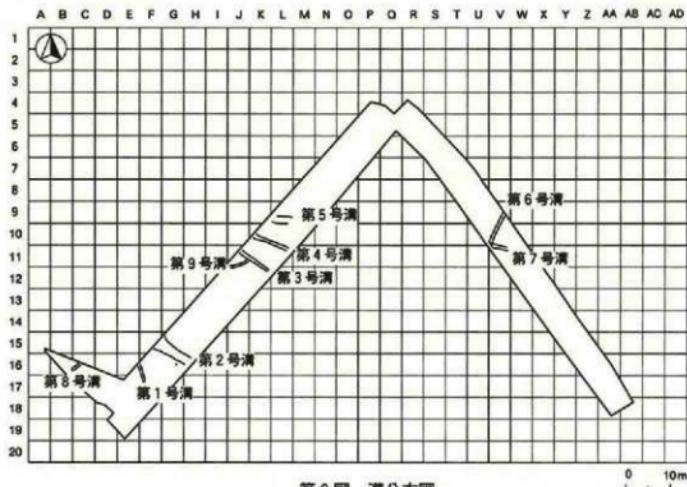
今回の調査で確認された遺構は、溝状遺構が9条、穴状遺構としては、土坑が3基、掘立柱建物跡が1棟、柱列が5列、板塀の跡が2列、ピットが97基確認された。その他、自然木群が4ヵ所、溜池状遺構が2ヵ所確認された。出土した遺物は土器の破片が多く、種類が特定できるものは少なかった。また、種類が特定できる遺物のほとんどは第4号溝の覆土中から出土している。



第7図 遺構分布図

## 第1節 溝状遺構

今回の発掘調査において9条の溝状遺構が確認された。調査区の西側で確認された溝状遺構のうち、第1～5号溝はほぼ北西から南東に延びる形で確認されている。遺物は第4号溝の覆土中から集中して出土した以外は、ほとんど出土しておらず、第4号溝以外に、確実に時代の推定ができる溝はない。

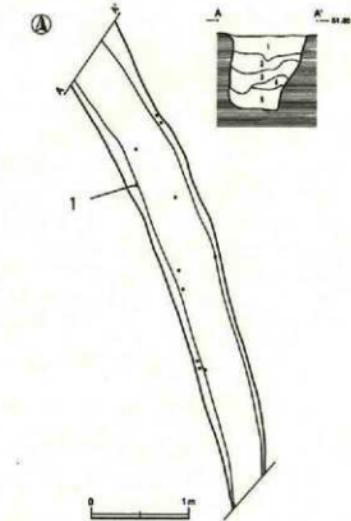


第8図 溝分布図

### 第1号溝

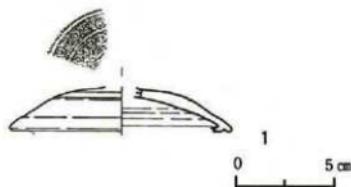
F-16・17 グリッドに位置し、北側は調査対象区外に延びており、南側は搅乱によって切られている。平面形状はほぼ直線状を呈し、断面形状は上に開くU字形を呈している。確認された溝の長さは約4.7m、最大幅0.55m、最深部の深さは77cmで、溝の方向はN-17°-Wを指している。

覆土は5層に分けられ、第1層は暗黄褐色で、締まりは強く、粘性はやや強く、炭化物を少量含んでいる。第2層は暗灰褐色で、締まりはやや強く、粘性は強く、炭化物を少量含んでいる。第3層は暗黄褐色で、締まりも粘性もやや強く、径3~10mmの炭化物が点在している。第4層は黄褐色で、締まりも粘性も共にやや強く、炭化物を少量含んでいる。第5層は暗黒褐色で、締まりも粘性も共に強く、炭化物を多く含んでいる。



第9図 第1号溝の平・断面図および遺物分布図

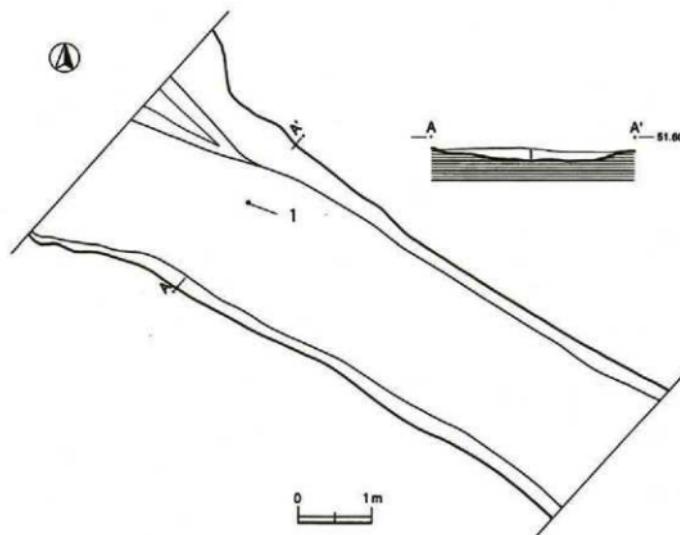
遺物は覆土中から土器片が11点出土している。特徴のある物を以下に示す。



第10図 第1号溝の出土遺物実測図

## 第2号溝

F・G・H-15・16グリッドに位置し、北西側・南東側ともに調査対象区外に延びている。平面形状はほぼ直線状を呈し、断面形状は皿状を呈している。確認された溝の長さは約8m、最大幅約3.75m、最深部の深さは16cmと浅く、溝の方向はN-55°-Wを指している。覆土は暗青灰色土が1層で、締まりは弱く、粘性はやや弱い。



第11図 第2号溝の平・断面図および遺物分布図

遺物は覆土中から土器片が1点出土している。



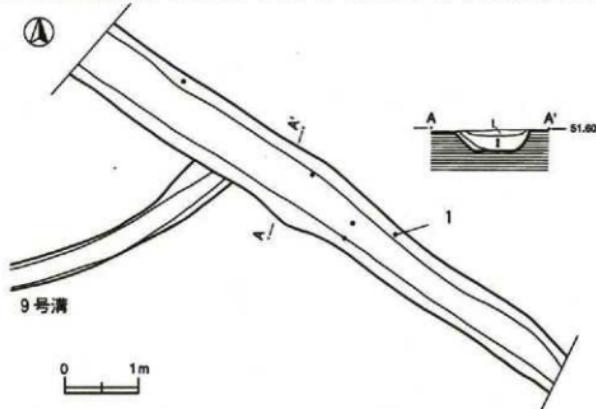
第12図 第2号溝の出土遺物実測図

1(遺物No.88)は小皿の底部から口縁部にかけての破片で、推定口径10.4cm、器高2.4cm、推定底径は7.1cmを測る。平底の底部からやや内寄しながら立ち上がっている。内・外面ともナデ調整が施され、底部には回転糸切痕が見られる。

## 第3号溝

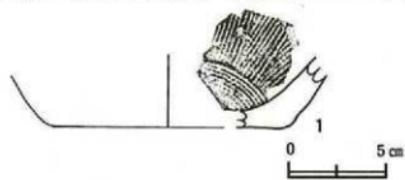
J・K-11・12グリッドに位置し、北西側・南東側ともに調査対象区外に延びている。平面形状はほぼ直線状を呈し、断面形状は上に開くU字形を呈している。確認された溝の長さは約7.7m、最大幅1.04m、最深部の深さは29cmである。溝の方向はN-55°-Wを指している。

覆土は3層に分けられ、第1層は暗黄褐色土で、締まりはやや強く、粘性は強く、炭化物を少量含んでいる。第2層は暗灰褐色土で、締まりは強く、粘性はやや強く、炭化物が点在している。第3層は明黄褐色土で、締まりはやや強く、粘性は強く、炭化物を少量含んでいる。



第13図 第3号溝の平・断面図および遺物分布図

遺物は覆土から土器片が5点出土している。特徴のある物を以下に示す。



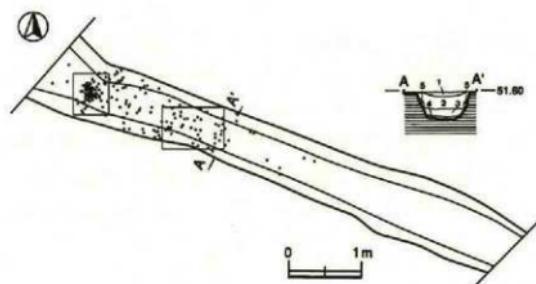
第14図 第3号溝の出土遺物実測図

## 第4号溝

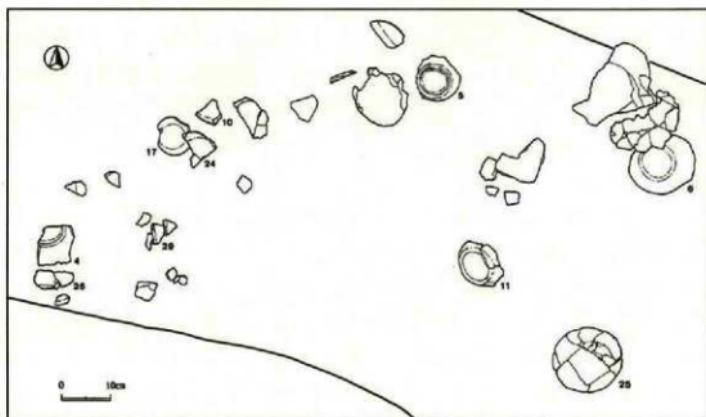
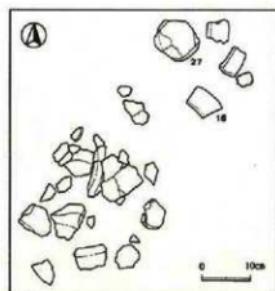
K・L-10・11グリッドに位置し、北西側・南東側ともに調査対象区外に延びている。平面形状はほぼ直線状を呈し、断面形状は上に開くU字形を呈している。確認された溝の長さは約8.25m、最大幅1.35m、最深部の深さは46cmで、溝の方向はN-70°-Wを指している。

覆土は5層に分けられ、第1層は暗黄褐色土で、締まりはやや強く、粘性は強く、炭化物を少量含んでいる。第2層は暗灰褐色土で、締まりは強く、粘性はやや強く、炭化物が点在している。第3層は明灰褐色土で、締まりも粘性も共に強く、炭化物を少量含んでいる。第4層は灰褐色土で、締まりはやや強く、粘性は強い。第5層は明黄褐色土で、締まりも粘性も共にやや強く、炭化物を少量含んでいる。

1 (遺物No.151) は擂鉢の底部の破片で推定底径は13.5cmを測る。平底の底部から直線的に立ち上がっている。内面は8本単位の擂り目が施され、外面はナデ調整が施されている。胎土は砂粒を少量含み、色調はぶい褐色である。

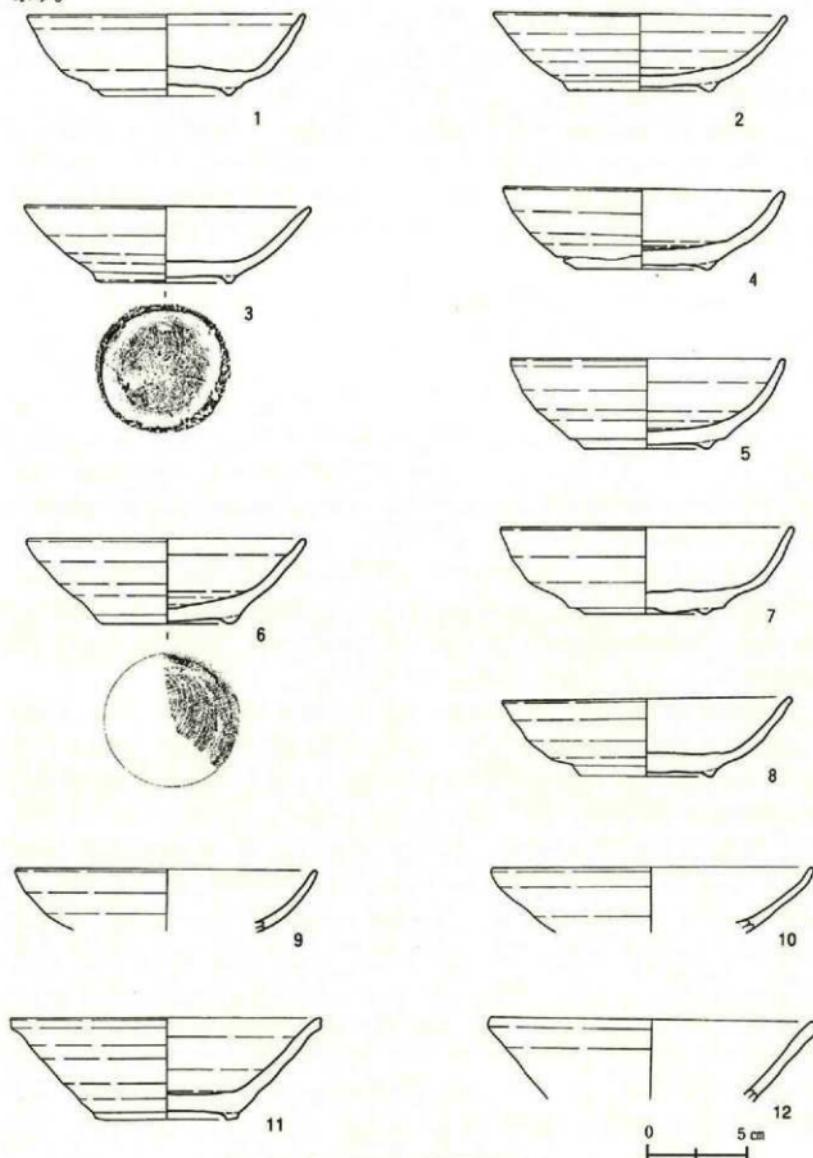


第15図 第4号溝の平・断面図および遺物分布図



第16図 第4号溝遺物出土状況図

遺物は西側の覆土中から土器片が集中して225点出土している。特徴のあるものを以下に示す。



第17図 第4号溝の出土遺物実測図（1）

1 (遺物No 375+380) は山茶碗の碗で、推定口径 14.0 cm、器高 4.2 cm、高台径は 6.2 cm を測る。底部から内彎し直線的に開いて立ち上がる。内・外面ともナデ調整が施されている。底部には回転糸切痕が見られ、断面形状が逆三角形を呈する高台をナデ付けている。内面に重ね焼きの高台の付着痕が見られ、オリーブ灰色の自然釉も付着する。胎土は黒・白色の砂粒を微量含み、色調は灰色である。

2 (遺物No 277) は山茶碗の碗のほぼ完形品で、口径 14.9 cm、器高 4.0 cm、高台径は 7.2 cm を測る。底部からやや内彎しながら直線的に開いて立ち上がる。内・外面ともナデ調整が施される。底部には回転糸切痕が見られ、付け高台は断面形状が低い逆三角形で、高台を付けた後ナデ調整が施される。また、口縁部の内面に黒褐色の自然釉が付着する。胎土は白色粒を微量含み、色調は青灰色である。

3 (遺物No 371+17他) は山茶碗の碗で、推定口径 14.6 cm、推定器高 4.0 cm、高台径は 7.0 cm を測る。底部からやや内彎しながら直線的に開いて立ち上がる。内・外面ともナデ調整が施されている。底部には回転糸切痕が見られ、付け高台は断面形状が低くつぶれた逆三角形で、高台を付けた後ナデ調整が施されている。胎土は黒色の砂粒を微量に含み、色調は灰白色である。

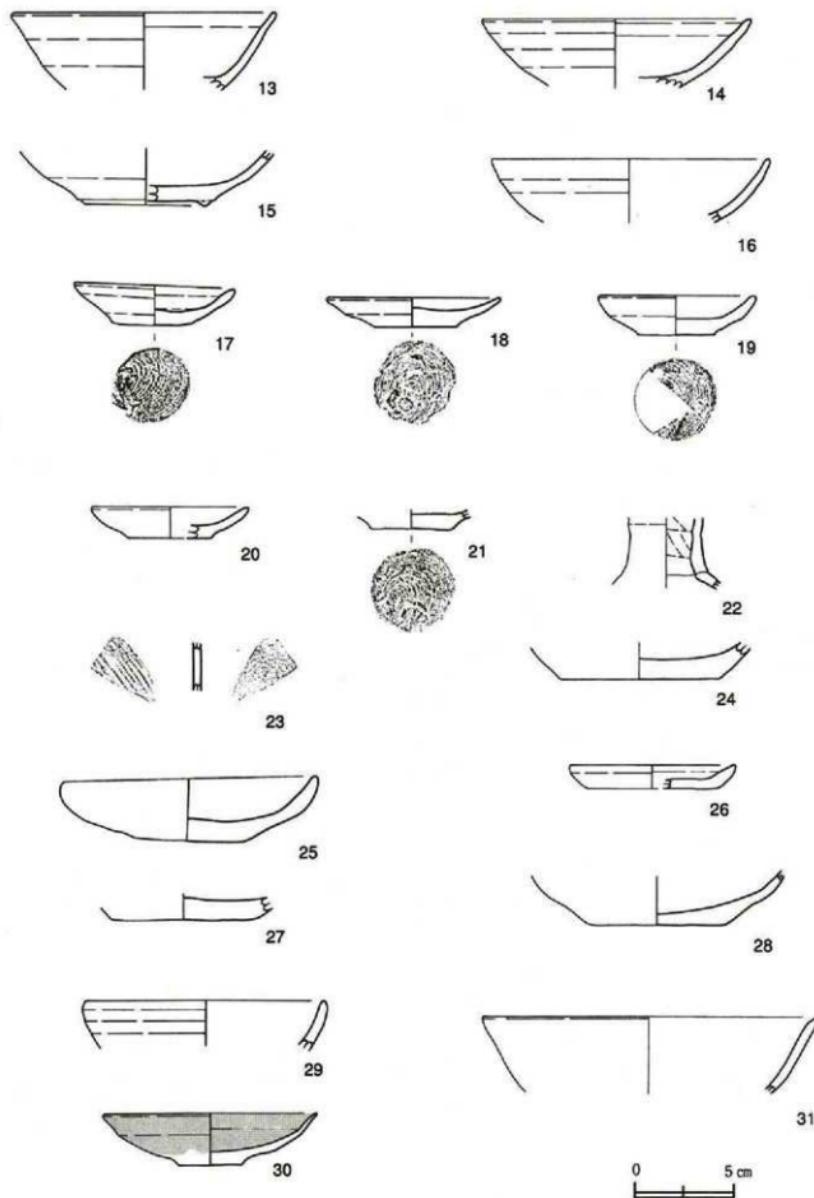
4 (遺物No 233+239+55) は山茶碗の碗で、口径 14.3 cm、器高 4.1 cm、高台径は 6.7 cm を測る。底部から内彎しながら立ち上がる。内・外面ともナデ調整が施される。高台は断面形状が低い逆三角形で、付け方が雑である。高台を付けた後ナデ調整が施される。胎土は黒色の砂粒を微量に含み、色調は灰色である。

5 (遺物No 251+259+385) は山茶碗の碗で、口径 14.1 cm、器高 4.6 cm、高台径は 5.7 cm を測る。底部から内彎しながら立ち上がる。内・外面ともナデ調整が施される。底部には回転糸切痕が見られ、付け高台は断面形状が低い逆三角形で、付け方が雑である。高台を付けた後ナデ調整が施される。胎土は精緻で、色調は灰白色である。

6 (遺物No 182) は山茶碗の碗で、口径 14.1 cm、器高 4.5 cm、高台径は 6.7 cm を測る。底部から内彎しながら直線的に開いて立ち上がっている。内面は横位のナデ調整、外面は横位・斜位のナデ調整が施される。底部には回転糸切痕が見られ、付け高台の断面形状は低い逆三角形である。胎土は黒色粒を微量に含み、色調は青灰色である。

7 (遺物No 388) は山茶碗の碗で、口径 14.9 cm、器高 4.3 cm、高台径は 5.6 cm を測る。底部から大きく内彎し、直線的に開いて立ち上がる。内・外面ともナデ調整が施されている。底部の内面には重ね焼きの高台痕が見られ、外面には回転糸切痕が見られる。付け高台は低く、断面形状は逆三角形で、高台を付けた後、ナデ調整が施される。胎土は黒色粒を少量含み、色調は灰色である。

8 (遺物No 301) は山茶碗の碗の完形品で、口径 14.5 cm、器高 4.0 cm、高台径は 6.9 cm を測る。底部からやや内彎しながら直線的に開いて立ち上がる。内・外面ともにナデ調整が施される。底部の外面に回転糸切痕が見られ、付け高台の断面形状は低い逆三角形で、付けた後ナデ調整が施される。胎土は黒色粒を少量含み、色調は灰色である。



第18図 第4号溝の出土遺物実測図（2）

9 (遺物No 269+331+386) は山茶碗の碗で、推定口径は15.0cmを測る。体部は内彎しながら開いて立ち上がる。内面は横位のナデ調整、外面は横位・斜位のナデ調整が施される。胎土は黒・白色粒を微量に含み、色調はオリーブ灰色である。

10 (遺物No 243) は山茶碗の碗で、推定口径は16.5cmを測る。体部は直線的に開き、口縁部は緩く内彎している。内・外面にナデ調整が施されている。また、口縁部の外面に褐色の釉をかける。胎土は茶色の砂粒を微量に含み、色調は黄灰色である。

11 (遺物No 264+294) は山茶碗の碗で、推定口径は16.5cmを測る。底部から直線的に開いて立ち上がり、口縁部はやや外反する。内面は横位のナデ調整、外面は横位・斜位のナデ調整が施される。付け高台の断面形状は台形である。胎土は砂粒が多く含み、白色粒を少量含み、色調は灰白色である。

12 (遺物No 267+354~356) は山茶碗の碗で、推定口径は16.5cmを測る。体部は直線的に開いて立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。壁厚は体部から口縁部にかけてほぼ同じで、内・外面に横ナデ調整が施される。胎土は黒・白色粒を微量に含み、色調は灰白色である。

13 (遺物No 179+286+287) は山茶碗の碗で、推定口径は13.3cmを測る。体部はやや内彎して直線的に開いて立ち上がり、口縁部はわずかに開く。内・外面とも横ナデ調整が施される。また、口縁部の内面にわずかにオリーブ灰色の自然釉が付着する。胎土は黒・白色粒を微量に含み、色調は青灰色である。

14 (遺物No 357) は山茶碗の碗で、推定口径は13.6cmを測る。体部は緩やかに内彎しながら直線的に開いて立ち上がり、口唇部は尖る。内面は横位・斜位のナデ調整、外面には横ナデ調整が施される。胎土は石英を微量に含み、色調は灰色である。

15 (遺物No 289) は山茶碗の碗で、推定高台径は6.0cmを測る。底部から緩やかに内彎して立ち上がる。付け高台の断面形状は逆三角形を呈し、付けた後ナデ調整される。内面は横位のナデ調整が施され、外面は横位・斜位のナデ調整が施される。胎土は白色粒を微量に含み、色調は灰白色である。

16 (遺物No 206) は山茶碗の碗で、推定口径は14.6cmを測る。体部は内彎しながら立ち上がる。内・外面にナデ調整が施される。胎土は黒・白色粒を微量に含み、色調は灰色である。

17 (遺物No 241) は小皿の完形品で、口径8.2cm、器高2.1cm、底径は3.8cmを測る。平底の底部からやや内彎して立ち上がり、直線的に開く。内・外面ともナデ調整が施される。底部には回転糸切痕が見られる。また、口縁部の内面にオリーブ灰色の自然釉が付着する。胎土は黒・白色粒を微量に含み、色調は灰白色である。

18 (遺物No 384) は小皿の完形品で、口径8.9cm、器高2.0cm、底径は4.2cmを測る。平底の底部から口縁部にかけて直線的に開く。内・外面にナデ調整が施され、内面には暗オリーブ色の自然釉が付着する。底部には回転糸切痕が見られる。胎土は白色の砂粒を少量含み、色調は灰色である。

19（遺物No 299+40）は小皿で、推定口径 8.0 cm、器高 2.0 cm、底径は 3.8 cm を測る。平底の底部から内彎しながら立ち上がる。内・外面ともナデ調整が施される。底部には回転糸切痕が見られる。胎土は白色の砂粒を微量に含み、色調は灰白色である。

20（遺物No 276）は小皿で、推定口径 8.1 cm、推定器高 1.6 cm、推定底径は 4.1 cm を測る。平底の底部からやや内彎し、直線的に開く。内面は横位・斜位のナデ調整、外面は横位のナデ調整が施される。また、底部に回転糸切痕が見られる。胎土は砂粒を微量に含み、色調は青灰色である。

21（遺物No 295）は土師器の小皿で、口径は 4.5 cm を測る。底部に回転糸切痕が見られる。内面にナデ調整が施される。胎土は黒色粒を微量に含み、色調は灰白色である。

22（遺物No 189）は灰釉陶器瓶の頸部の破片で、しづり痕が見られる。内・外面ともナデ調整が施される。胎土は砂粒を少量含み、色調は灰白色である。

23（遺物No 228）は須恵器の甕の破片である。内面はナデ調整が施され、青海波紋がみられる。また外面にはタタキ目がみられる。胎土は黒色粒を少量含む。色調は灰白色である。

24（遺物No 13+246）はかわらけの破片で、推定底径は 8.0 cm を測る。平底で、回転糸切痕が見られる。外面にはハケメ、内面にはナデ調整が施される。胎土は茶色の砂粒を微量に含み、色調は浅黄橙色である。

25（遺物No 309）はかわらけの破片で、推定口径 13.1 cm、推定底径は 5.6 cm を測る。平底の底部より緩やかに内彎しながら立ち上がっている。器面が剥離しており調整方法は不明である。胎土は茶色の砂粒を微量に含み、色調は浅黄橙色である。

26（遺物No 229+230）はかわらけの破片で、推定口径 8.4 cm、推定器高は 1.2 cm を測る。平底の底部から開いて短く立ち上がる。器面が剥離しており調整方法は不明である。胎土は茶色の砂粒を少量含み、色調はにぶい橙色である。

27（遺物No 392）はかわらけの破片で、推定底径は 7.0 cm を測る。平底で、表面が摩滅しているため調整方法は不明である。胎土は茶色の砂粒を微量に含み、色調は橙色である。

28（遺物No 226）はかわらけの破片で、推定底径は 6.5 cm を測る。器面の剥離が著しい。胎土は茶色の砂粒をやや多く含み、色調は橙色である。

29（遺物No 238）はかわらけの破片で、推定口径は 12.3 cm を測る。内・外面にナデ調整が施される。胎土は黒色粒を微量に含み、色調はにぶい橙色である。

30（遺物No 353）は白磁の小皿で、推定口径 11.0 cm、推定器高 2.7 cm、推定底径は 3.4 cm を測る。平底の底部からやや内彎しながら立ち上がり、口縁部はやや外反する。内・外面ともナデ調整が施され、体部の 2/3 は浅黄色の釉が施される。底部はヘラ切りされる。胎土は黒色粒を微量含み、色調は淡黄色である。

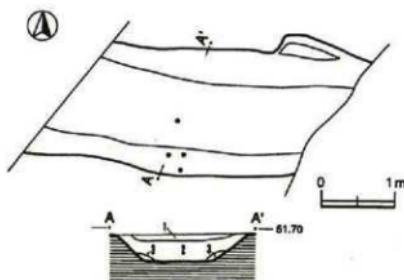
31（遺物No.249）は白磁の碗で、推定口径は 17.2 cm を測る。緩やかに内彎しながら立ち上がる。内・外面の口縁端部以外には明緑灰色に施釉される。胎土は精緻である。

## 第5号溝

L-9・10グリッドに位置し、西側は調査対象区外に延びており、東側は第1号溜池状遺構によって切られている。平面形状はほぼ直線状を呈し、断面形状は上に広く開くU字形を呈している。確認された溝の長さは約3.8m、最大幅1.96m、最深部の深さは36cmで、溝の方向はほぼ東西を指している。

覆土は3層に分けられ、第1層は暗黄褐色土で、締まりも粘性も共にやや強く、炭化物を少量含んでいる。第2層は暗灰褐色土で、締まりは強く、粘性はやや強く、炭化物が点在している。第3層は明灰褐色土で、締まりも粘性も共にやや強く、炭化物を少量含んでいる。

遺物は覆土中から土器の細片が4点出土している。



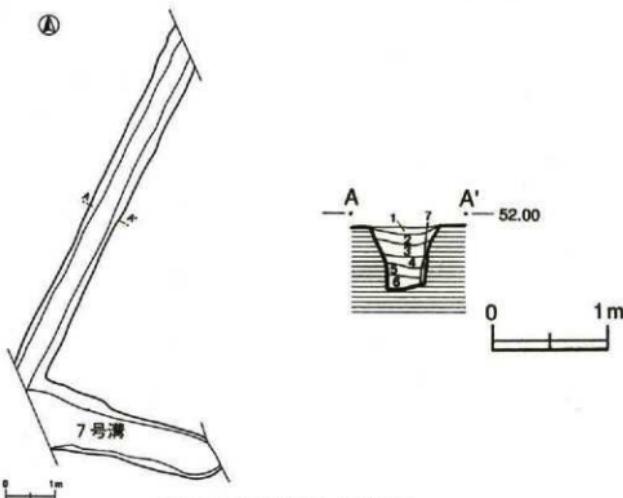
第19図 第5号溝の平・断面図および遺物分布図

## 第6号溝

V-9・10グリッドに位置し、北側・南側ともに調査対象区外に延びており、南側は第7号溝に切られている。平面形状はほぼ直線状を呈し、断面形状はU字形を呈している。確認された溝の長さは約7.6m、最大幅0.7m、最深部の深さは55cmで、溝の方向はN-25°-Eを指している。

覆土は7層に分けられ、第1層は暗黄褐色土で、締まりは強く、粘性はやや強く、炭化物を多く含んでいる。第2層は暗黄褐色土で、締まりは強く、粘性はやや強く、炭化物が点在している。第3層は暗黄褐色土で、締まりはやや強く、粘性は強く、炭化物が点在している。第4層は暗灰褐色土で、締まりはやや強く、粘性は強く、炭化物を少量含んでいる。第5層は暗灰褐色土で、締まりはやや弱く、粘性はやや強く、黄灰色土がブロック状に点在している。第6層は明灰褐色土で、締まりも粘性も共にやや弱く、炭化物を少量含んでいる。第7層は明灰褐色土で、締まりはやや強く、粘性はやや弱い。

遺物は確認されていない。

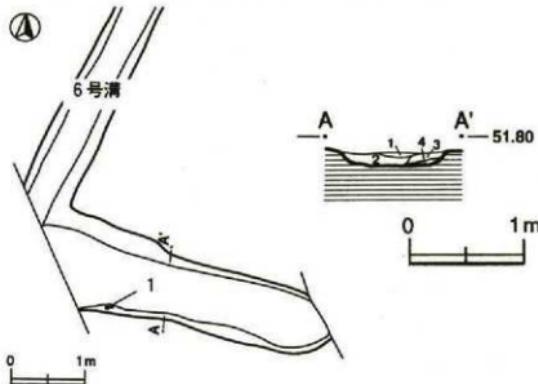


第20図 第6号溝の平・断面図

## 第7号溝

V-11グリッドに位置し、西側は調査対象地区外に延びておらず、東側は第2号溜池状遺構によって切られている。平面形状はほぼ直線状を呈し、断面形状は皿状を呈している。確認された溝の長さは約4.2m、最大幅1.3m、最深部の深さは12cmである。溝の方向はN-77°-Wを指している。

覆土は4層に分けられ、第1層は暗黄褐色土で、締まりは強く、粘性はやや強く、炭化物を少量含んでいる。第2層は灰褐色土で、締まりは強く、粘性はやや強く、炭化物を少量含んでいる。第3層は暗黄褐色土で、締まりは強く、粘性はやや強く、炭化物が点在している。第4層は暗黄褐色土で、締まりも粘性も共に強く、炭化物を少量含んでいる。



第21図 第7号溝の平・断面図および遺物分布図

遺物は覆土中から土器の細片が2点出土している。特徴のあるものを以下に示す。

1(遺物No.421)は須恵器の壺蓋で、やや内彎しながら立ち上がる。内・外面ともにナデ調整が施される。胎土は砂粒を微量含み、色調は灰色である。

#### 第8号溝

C-11グリッドに位置し、北東側は調査対象区外に延びている。平面形状はほぼ直線状を呈し、断面形状は上に開くU字形を呈している。確認された溝の長さは約2m、最大幅0.45m、最深部の深さは10cmである。溝の方向はN-52°-Eを指している。

覆土は暗黄褐色土が1層で、締まりはやや弱く、粘性は強く、炭化物を少量含んでいる。

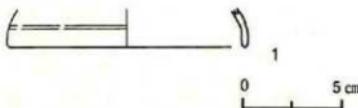
遺物は確認されていない。

#### 第9号溝

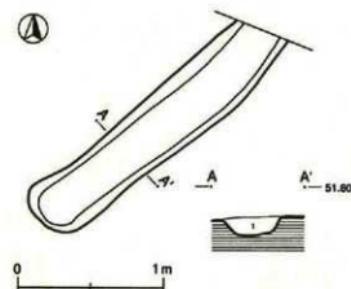
J-K-11-12グリッドに位置し、西側は調査対象区外に延びており、東側は第3号溝によって切られている。平面形状はほぼ直線状を呈し、断面形状は上に開くU字形を呈している。確認された溝の長さは約4.5m、最大幅0.55m、最深部の深さは13cmで、溝の方向はN-72°-Eを指している。

覆土は暗黄褐色土が1層で、締まりはやや強く、粘性は強く、炭化物を少量含んでいる。

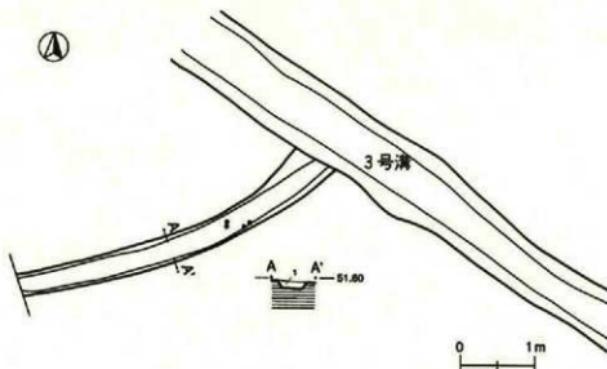
遺物は覆土中から土器片が4点出土している。



第22図 第7号溝の出土遺物実測図



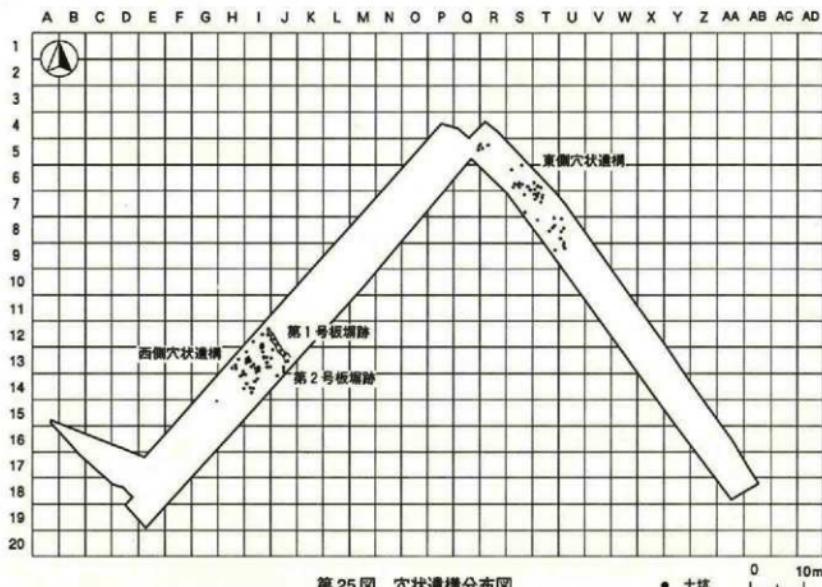
第23図 第8号溝の平・断面図



第24図 第9号溝の平・断面図および遺物分布図

## 第2節 穴状遺構と遺物

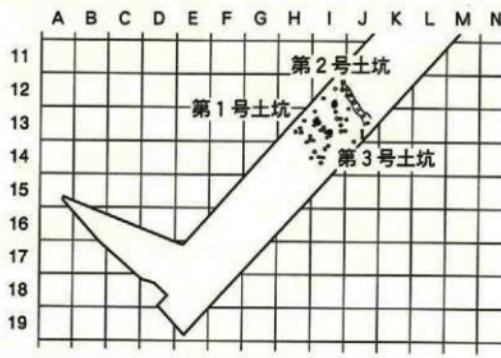
今回の調査で穴状遺構としては、土坑が3基、掘立柱建物跡が1棟、柱列が5列、板塀の跡が2列、ピットが97基確認された。



第25図 穴状遺構分布図

### (1) 土坑

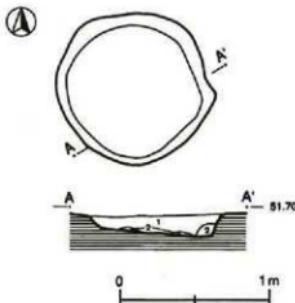
穴状遺構のうち、深さが浅く規模が比較的大きいものを土坑としてあつかった。今回の調査で3基確認されており、3基のうち第2号土坑の覆土中から土器片が出土しているが、それ以外の土坑からは遺物は確認されなかった。



第26図 土坑分布図

## 第1号土坑

I-13グリッドに位置し、平面形状は円形で、断面形状は皿状を呈している。長径109cm、短径104cm、深さは最深部で16cmある。覆土は2層に分けられ、第1層は明灰褐色土で、締まりも粘性とともにやや強く、径5~10mmの炭化物が点在している。第2層は明黄褐色土で、締まりも粘性も共に強く、炭化物を少量含んでいる。遺物は確認されなかった。

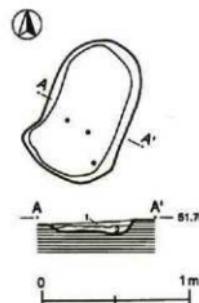


第27図 第1号土坑の平・断面図

## 第2号土坑

I-12・13グリッドに位置し、平面形状は椭円形で、断面形状は皿状を呈している。長さ99cm、最大幅58cm、深さは最深部で8cmあり、長軸の方向はN-27°-Eを指している。覆土は2層に分けられ、第1層は暗黄褐色土で、締まりはやや強く、粘性は強く、炭化物を少量含んでいる。第2層は明黄褐色土で、締まりも粘性も共に強く、炭化物を少量含んでいる。

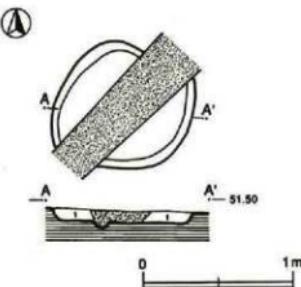
遺物は覆土中から土器片が3点出土している。



第28図 第2号土坑の平・断面図および遺物分布図

## 第3号土坑

I-13グリッドに位置し、平面形状は円形で、断面形状は皿状を呈している。長径91cm、短径85cm、深さは最深部で9cmある。北東から南西にかけて帯状に擾乱を受けている。覆土は暗黄褐色土が1層で、締まりも粘性も共に強く、炭化物を少量含んでいる。遺物は確認されなかった。



第29図 第3号土坑の平・断面図

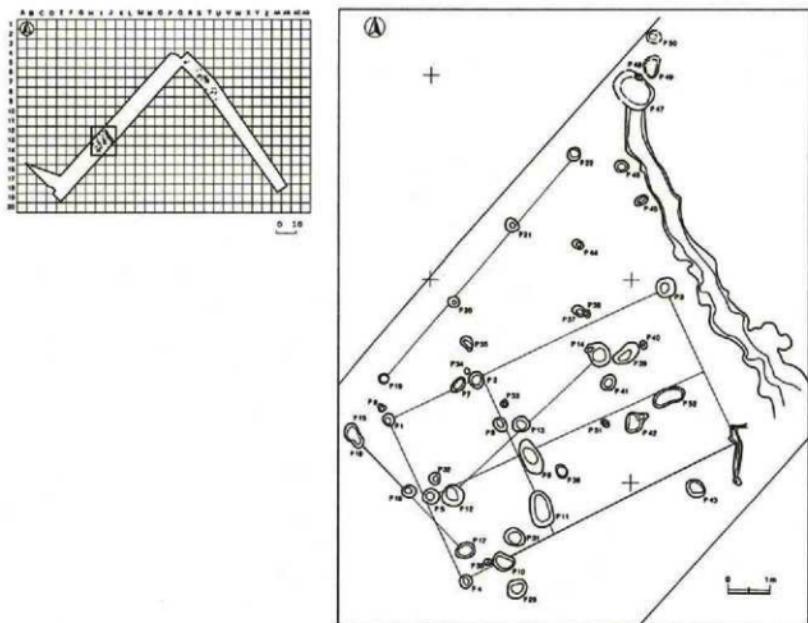
## (2) 柱穴(ピット)状遺構

穴状遺構のうち、柱穴(ピット)状遺構は調査区の西側(G～Kグリッド)と調査区の東側(Q～Uグリッド)でピット群が確認されている。確認面の土層が異なっていることから構築された時期に差があると思われるが、東側のピット群から遺物が確認されていないため、時期の推定は困難である。

調査区西側のピット群の中には、配列に規格性が見られる建物跡が1棟、柱穴列が3列、布掘りによる板塀ではないかと考えられる遺構が2基確認された。そのほか、建物跡や柱穴列と判断されない柱穴状遺構が25基確認されているが、形状・大きさ・深さ等に統一性がなく、配置にも規格性が見られなかったため、ピット群として取り扱い、その計測値を一覧表に示した。

調査区東側のピット群の中には、配列に規格性が見られる柱穴列が2列確認された。そのほか、柱穴列と判断されない柱穴状遺構が43基確認されているが、形状・大きさ・深さ等に統一性がなく、配置にも規格性が見られなかったため、西側のピット群と同様に取り扱い、その計測値を一覧表に示した。

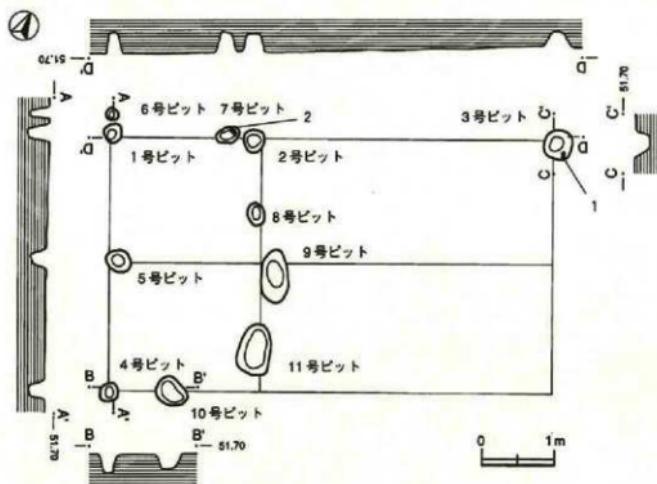
## ①調査区の西側(G～Kグリッド)のピット群



第30図 西側穴状遺構の分布図

## 第1号掘立柱建物跡（第1号～第11号ピット）

H～J-12～13グリッドに位置し、柱穴が全部揃って確認されてはいないが、配置からみると、2間×3間の建物が想定される。梁行約4.3m、桁行約7.5mの規模で、主軸の方向はN-63°-Eである。ピットの掘り方は、平面形状が第9号ピットと第11号ピット以外は径30～50cmのほぼ円形で、断面形状は上に開くU字形を呈しており、ピットの底の標高は51.3m前後であり、柱痕が確認されたピットはなかった。覆土は2層に分かれるものが多く、第1層は暗黄褐色土で締まりも粘性も共に強く、炭化物を少量含んでいる。第2層は明黄褐色土で、締まりも粘性も共に強く、炭化物を少量含んでいる。



第31図 第1号掘立柱建物跡の平・断面図および遺物分布図

遺物は、第3号ピットの覆土中から土器片が2点、第7号ピットの覆土中から土器片が3点出土している。特徴のあるものを以下に示す。

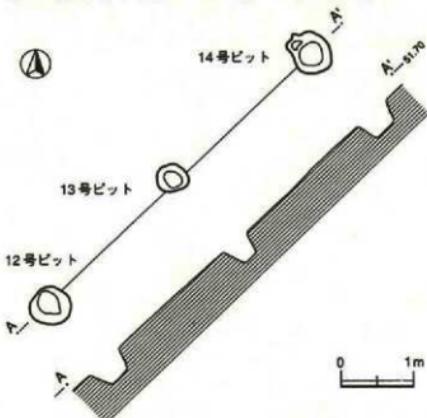


第32図 第1号掘立柱建物跡の遺物実測図

1（遺物No.408）は第3号ピットから出土した山茶碗の碗のほぼ完形品で3/4が残存する。口径14.4cm、器高3.7cm、高台径は6.5cmを測る。底部からゆるやかに内彎しながら立ち上がる。内・外ともナデ調整が施される。底部には回転糸切痕が見られ、付け高台の断面形状は低い逆三角形を呈し、接着後ナデ調整が施される。胎土は砂粒、黒・白色粒を少量含み、色調は灰白色である。

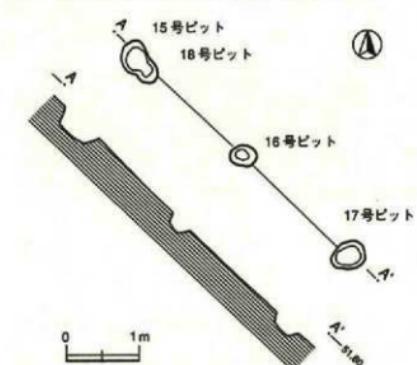
2(遺物No104)は第7号ピットから出土した小皿のはば完形品で2/3が残存する。口径7.2cm、器高2.2cm、底径は4.2cmを測る。底部からやや内側して立ち上がり、直線的に開く。内・外側ともナデ調整が施される。底部に回転糸切痕が見られる。

第1号柱穴列(第12号～第14号ピット)



第33図 第1号柱穴列の平・断面図

第2号柱穴列(第15号～第18号ピット)



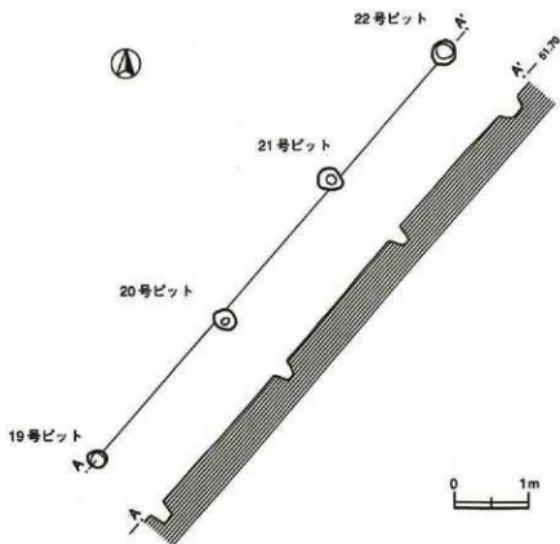
第34図 第2号柱穴列の平・断面図

I-I 12～13グリッドに位置し、第1号掘立柱建物跡と重複して3基のピットが2.5mの等間隔で確認された。配列軸の方向はN-46°-Eで、ピットの掘り方は、第12号ピットが径55cm、第13号ピットが径45cm、第14号ピットが径60cmのはば円形で、断面形状は上に開くU字形を呈しており、ピットの底の標高は51.2m前後である。覆土は3基とも2層に分かれ、第1層は暗黄褐色土で締まりも粘性も共に強く、炭化物を少量含んでいる。第2層は明黄褐色土で、締まりも粘性も共に強く、炭化物を少量含んでいる。柱痕が確認されたピットではなく、ピットの中から遺物は確認されなかった。

H-H 12～13グリッドに位置し、第1号掘立柱建物跡と重複して3基のピットが2.0mの等間隔で確認された。第15号ピットは重複している第18号ピットを切っている。配列軸の方向はN-45°-Wで、ピットの掘り方は、第15号ピットが径約40cm、第16号ピットが径約35cm、第17号ピットが径約45cmのはば円形で、断面形状は上に開くU字形を呈しており、ピットの底の標高は51.2m前後である。覆土は3基とも暗黄褐色土が1層で、締まりも粘性も共にやや強く、炭化物を少量含んでいる。柱痕が確認されたピットではなく、ピットの中から遺物は確認されなかった。

## 第3号柱穴列（第19号～第22号ピット）

H～I-11～12グリッドに位置し、4基のピットが2.4m～2.5m間隔で確認された。配列軸の方向はN-41°-Eで、ピットの掘り方は、第19号ピットが径25cm、第20号ピットが径30cm、第21・22号ピットが径35cmのはば円形で、断面形状は上に開くU字形を呈しており、ピットの底の標高は51.4m前後である。覆土は4基とも暗黄褐色土が1層で、締まりはやや強く、粘性は強く、炭化物を少量含んでいる。柱痕が確認されたピットはなく、第21号ピットから疊が2点出土したほかは遺物の出土したピットはない。

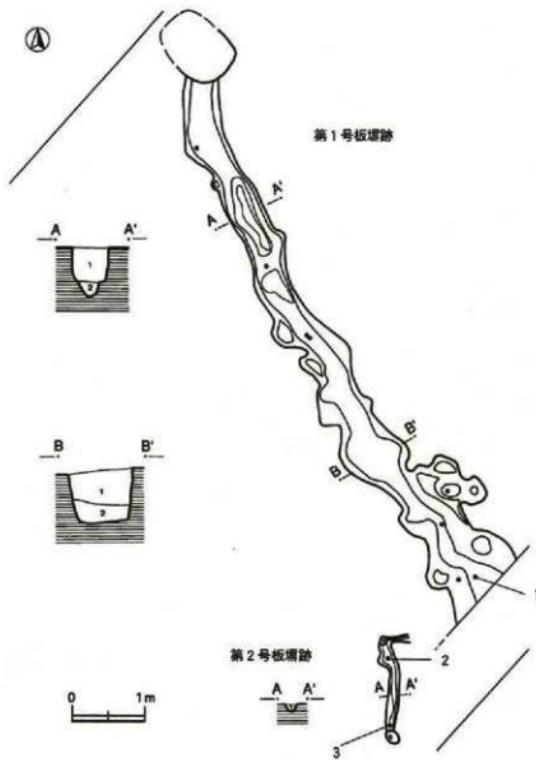


第35図 第3号柱穴列の平・断面図

## 第1・2号板塙跡

第1号板塙跡は、I～J-11～12グリッドに位置し、布掘りによる板塙の可能性が考えられる。北側は第20号ピットに切られており、南側は調査対象区外に延びているため、確認された長さは約8.5mで、最大幅1.2m、最深部の深さは73cmある。主軸の方向はN-30°-Wで、掘り方の断面形状はU字形を呈している。覆土は2層に分かれ、第1層は暗黄褐色土で締まりも粘性も共に強く、炭化物を少量含んでいる。第2層は明黄褐色土で、締まりも粘性も共に強く、炭化物を少量含んでいる。

第2号板塙跡は、J-12グリッドに位置し、布掘りによる板塙の可能性が考えられる。平面形状はL字形を呈しており、東側は搅乱により削平され、南側は発掘対象区外に延びていると思われる。確認された長さは南北方向が約1.5m、東西方向が0.4mで、最大幅25cm、最深部の深さは27cmあり、掘り方の断面形状は上に開くU字形を呈している。覆土は暗黄褐色土が1層で、暗茶褐色土がマーブル状に含まれる。締まりはやや強く、粘性は強く、炭化物を少量含んでいる。北側と南側にピットが確認されている。北側のピットは平面形状が橢円形で、断面形状は上に開くU字形を呈しており、短径8cm、長径15cm、深さは32cmである。南北に伸びた掘り方が東に方向転換する部分に、支柱があった可能性がある。南側のピットは平面形状が橢円形で、断面形状は上に開くU字形を呈しており、短径15cm、長径20cm、深さは40cmある。



第36図 第1・2号板塙跡の平・断面図および遺物分布図

遺物は第1号板塙跡の覆土中から土器片が2点、第2号板塙跡の覆土中から土器片が8点出土している。特徴のあるものを以下に示す。



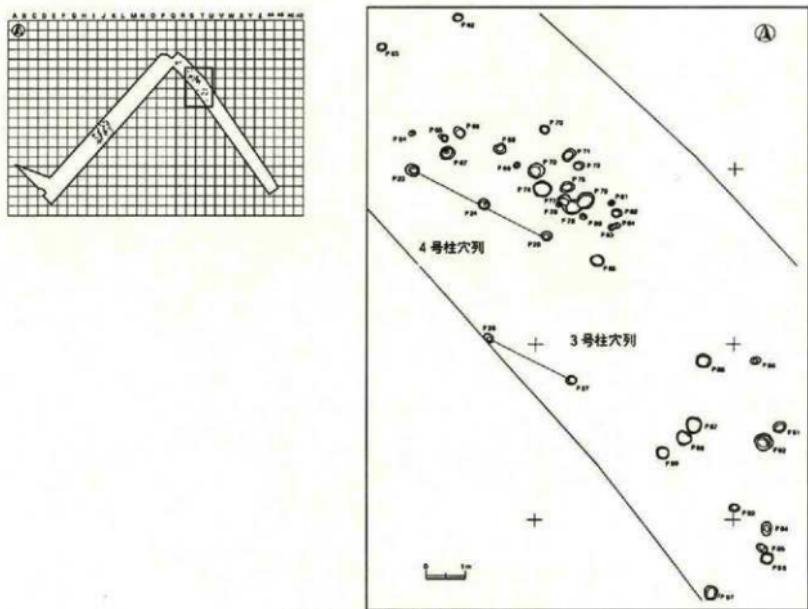
第37図 第1・2号板塙跡の出土遺物実測図

1（遺物No.412）は第1号板塙跡から出土した須恵器の壺蓋で、口縁部とつまみ部が欠損している。扁平な半球状を呈していると思われる。内面はナデ調整、外面はヘラ削りされている。胎土は白色粒を微量に含み、色調は灰色である。

2（遺物No.427）は第2号板塙跡から出土した小皿で1/3が残存する。推定口径9.2cm、推定器高2.1cm、推定底径は4.9cmを測る。底部から緩やかに内灣しながら立ち上がる。内・外面ともナデ調整が施される。胎土は黒・茶・白色粒を少量含み、色調は灰白色である。

3（遺物No.428）は第2号板塙跡から出土した須恵器の壺蓋で、天井部とかえりを欠損する。推定最大径は11.2cmを測る。口縁部の内側にはかえりがある。内・外面ともナデ調整が施されている。胎土は黒・茶・白色粒を少量含み、色調は灰白色である。

### （3）調査区の東側（Q～Uグリッド）のピット群



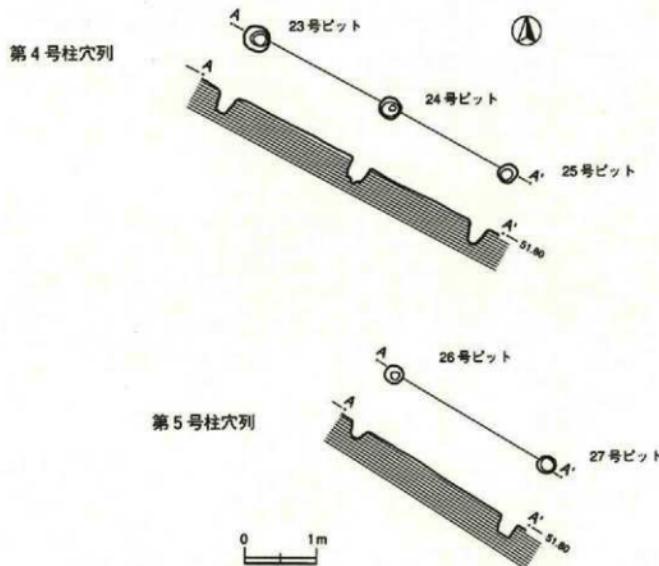
第38図 東側穴状遺構の分布図

#### 第4号柱穴列（第23号～第25号ピット）

S～T-7グリッドに位置し、3基の柱穴からなり、第23号ピットと第24号ピット間が2.0m、第24号ピットと第25号ピット間が1.8mの間隔で確認された。配列軸の方向はN-63°-Wで、柱穴の掘り方は、第23号ピットが径36cm、第24号ピットが径32cm、第25号ピットが径28cmのはば円形で、断面形状は上に開くU字形を呈しており、柱穴の底の標高は51.5m前後である。覆土は3基とも暗黄灰色土が1層で、しまりは強く、粘性はやや強く、炭化物を少量含んでいる。第24号ピットで柱痕と考えられる掘り込みが確認されたが、第23号ピットと第25号ピットでは柱痕は確認されなかった。なお、遺物は確認されていない。

#### 第5号柱穴列（第26号～第27号ピット）

S～T-7～8グリッドに位置し、2基の柱穴が2.5mの間隔で確認されたが、さらに調査対象区域の西側に列が延びていると推定される。第4号柱穴列と組み合わせて建物跡となる可能性があると考えられる。配列軸の方向はN-60°-Wで、ピットの掘り方は、第26号・第27号ピットとも径約25cmのはば円形で、断面形状は上に開くU字形を呈しており、柱穴の底の標高は51.5m前後である。覆土は2基とも暗黄灰色土が1層で、しまりはやや強く、粘性は強く、炭化物が点在している。柱痕が確認されたピットはなく、ピットの中から遺物は確認されなかった。



第39図 第4・5号柱穴列の平・断面図

第1表 ピット群一覧表(1)

番号	ケ'リット*	平面形状	断面形状	短径	長径	深さ	備考
1	H-12	円形	上に開くU字形	28 cm	32 cm	37 cm	第1号掘立柱建物跡
2	I-12	円形	上に開くU字形	36 cm	39 cm	31 cm	第1号掘立柱建物跡
3	J-12	円形	上に開くU字形	50 cm	—	25 cm	第1号掘立柱建物跡
4	I-13	円形	上に開くU字形	30 cm	32 cm	32 cm	第1号掘立柱建物跡
5	I-13	円形	上に開くU字形	39 cm	40 cm	27 cm	第1号掘立柱建物跡
6	H-12	円形	上に開くU字形	20 cm	—	32 cm	第1号掘立柱建物跡
7	I-12	椭円形	上に開くU字形	28 cm	40 cm	34 cm	第1号掘立柱建物跡
8	I-12	椭円形	上に開くU字形	29 cm	40 cm	33 cm	第1号掘立柱建物跡
9	I-13	椭円形	上に開くU字形	47 cm	91 cm	32 cm	第1号掘立柱建物跡
10	I-13	椭円形	上に開くU字形	42 cm	56 cm	27 cm	第1号掘立柱建物跡
11	I-13	椭円形	上に開くU字形	89 cm	55 cm	29 cm	第1号掘立柱建物跡
12	I-13	円形	上に開くU字形	55 cm	—	32 cm	第1号柱穴列
13	J-12	円形	上に開くU字形	45 cm	—	32 cm	第1号柱穴列
14	I-12	円形	上に開くU字形	60 cm	—	30 cm	第1号柱穴列
15	H-12	円形?	上に開くU字形	40 cm	—	24 cm	第2号柱穴列
16	J-13	円形	上に開くU字形	35 cm	—	15 cm	第2号柱穴列
17	I-11	円形	上に開くU字形	45 cm	—	14 cm	第2号柱穴列
18	J-11	円形?	上に開くU字形	29 cm	—	22 cm	第2号柱穴列
19	I-11	円形	上に開くU字形	25 cm	—	23 cm	第3号柱穴列
20	I-J-11	円形	上に開くU字形	30 cm	—	20 cm	第3号柱穴列
21	J-10-11	円形	上に開くU字形	35 cm	—	23 cm	第3号柱穴列
22	J-10	円形	上に開くU字形	35 cm	—	14 cm	第3号柱穴列
23	S-7	円形	U字形	36 cm	—	30 cm	第4号柱穴列
24	S-7	円形	U字形	32 cm	—	32 cm	第4号柱穴列
25	T-7	円形	上に開くU字形	28 cm	—	30 cm	第4号柱穴列
26	S-7	円形	上に開くU字形	28 cm	—	20 cm	第5号柱穴列
27	T-8	円形	上に開くU字形	28 cm	—	22 cm	第5号柱穴列
28	G-15	円形	U字形	29 cm	33 cm	40 cm	
29	I-13	円形	U字形	44 cm	50 cm	43 cm	
30	I-13	円形	上に開くU字形	16 cm	19 cm	15 cm	
31	I-13	椭円形	U字形	44 cm	54 cm	41 cm	
32	I-12-13	円形	U字形	28 cm	32 cm	18 cm	
33	I-12	円形	U字形	16 cm	17 cm	37 cm	
34	I-12	円形	U字形	12 cm	13 cm	31 cm	
35	I-12	椭円形	U字形	25 cm	33 cm	44 cm	
36	I-12	椭円形	皿状	27 cm	34 cm	10 cm	
37	I-12	椭円形	U字形	25 cm	32 cm	41 cm	
38	I-12	円形?	U字形	18 cm	—	37 cm	39ピットと重複
39	I-12	椭円形?	U字形	38 cm	—	45 cm	38ピットと重複
40	J-12	円形	U字形	17 cm	22 cm	45 cm	
41	I-12	椭円形	上に開くU字形	34 cm	42 cm	27 cm	
42	I-J-12	不整椭円形	皿状	51 cm	67 cm	10 cm	
43	J-13	円形	U字形	42 cm	50 cm	43 cm	
44	I-11	椭円形	U字形	21 cm	29 cm	28 cm	
45	J-11	椭円形	上に開くU字形	22 cm	34 cm	19 cm	
46	I-11	円形	U字形	30 cm	31 cm	20 cm	
47	I-J-11	隅丸方形?	U字形	73 cm	—	52 cm	排水溝で切られる
48	J-10-11	円形	上に開くU字形	14 cm	19 cm	20 cm	
49	J-10	円形?	上に開くU字形	30 cm	—	23 cm	排水溝で切られる
50	J-10	円形?	U字形	32 cm	—	45 cm	排水溝で切られる

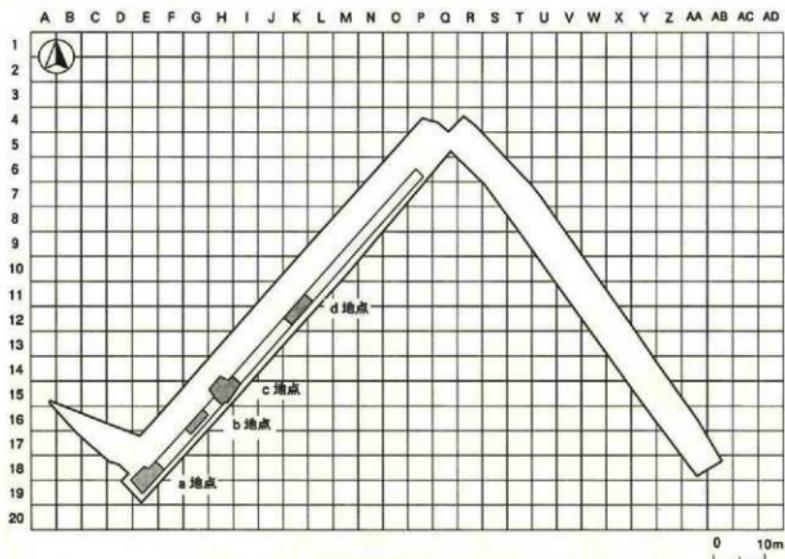
第2表 ピット群一覧表(2)

番号	タ'リット*	平面形状	断面形状	短径	長径	深さ	備考
51	J - 12	楕円形	U字形	18 cm	26 cm	30 cm	
52	K - 12	楕円形	上に開く U字形	38 cm	82 cm	34 cm	
53	Q - 10	楕円形	U字形	24 cm	33 cm	33 cm	
54	Q - 10	円形	U字形	25 cm	28 cm	23 cm	
55	Q - 5	円形	上に開く U字形	22 cm	—	21 cm	56ピットと重複
56	Q - 5	楕円形	U字形	26 cm	—	20 cm	55・57ピットと重複
57	Q - 5	楕円形?	上に開く U字形	32 cm	—	17 cm	56ピットと重複
58	Q - 5	円形?	U字形	33 cm	—	46 cm	一部擾乱
59	Q - 5	楕円形	上に開く U字形	21 cm	29 cm	34 cm	
60	Q - 5	円形	上に開く U字形	33 cm	36 cm	28 cm	
61	R - 5	円形?	U字形	25 cm	—	24 cm	排水溝で切られる
62	S - 6	円形	皿状	47 cm	54 cm	9 cm	
63	S - 6	円形	U字形	49 cm	52 cm	15 cm	
64	S - 6	円形	上に開く U字形	14 cm	16 cm	22 cm	
65	S - 6	楕円形	上に開く U字形	18 cm	28 cm	12 cm	
66	S - 6	楕円形	U字形	22 cm	33 cm	31 cm	
67	S - 6	円形	上に開く U字形	35 cm	37 cm	36 cm	
68	S - 6	円形	U字形	28 cm	31 cm	26 cm	
69	S - 6	円形	皿状	15 cm	17 cm	7 cm	
70	T - 6	円形	U字形	21 cm	23 cm	22 cm	
71	T - 6	楕円形	上に開く U字形	26 cm	37 cm	26 cm	
72	T - 6	円形	U字形	23 cm	25 cm	20 cm	
73	S-T-6-7	楕円形	U字形	39 cm	43 cm	27 cm	
74	S-T-7	円形	上に開く U字形	43 cm	45 cm	28 cm	
75	T - 7	楕円形	U字形	28 cm	37 cm	32 cm	
76	T - 7	楕円形?	U字形	12 cm	—	24 cm	77ピットと重複
77	T - 7	円形?	U字形	30 cm	—	38 cm	76・78ピットと重複
78	T - 7	円形?	U字形	39 cm	—	24 cm	77・79ピットと重複
79	T - 7	楕円形?	U字形	43 cm	—	41 cm	78ピットと重複
80	T - 7	円形	U字形	17 cm	19 cm	20 cm	
81	T - 7	円形	U字形	15 cm	17 cm	21 cm	
82	T - 7	円形	上に開く U字形	24 cm	26 cm	21 cm	
83	T - 7	円形?	U字形	17 cm	—	28 cm	84ピットと重複
84	T - 7	円形?	U字形	16 cm	—	34 cm	83ピットと重複
85	T - 7	円形	上に開く U字形	33 cm	35 cm	23 cm	
86	T - 8	円形	皿状	38 cm	39 cm	7 cm	
87	T - 8	円形	皿状	42 cm	43 cm	13 cm	
88	T - 8	円形	皿状	38 cm	39 cm	10 cm	
89	T - 8	円形	上に開く U字形	34 cm	36 cm	13 cm	
90	U - 8	楕円形	U字形	21 cm	26 cm	21 cm	
91	U - 8	楕円形	U字形	28 cm	34 cm	30 cm	
92	U - 8	円形	皿状	46 cm	47 cm	20 cm	
93	T-U-8	楕円形	U字形	21 cm	27 cm	15 cm	
94	U - 9	楕円形	U字形	25 cm	39 cm	19 cm	
95	U - 9	円形	U字形	23 cm	31 cm	22 cm	
96	U - 9	円形	上に開く U字形	32 cm	34 cm	12 cm	
97	T - 9	隅丸方形	上に開く U字形	31 cm	36 cm	16 cm	

### 第3節 その他の遺構と遺物

#### (1) 自然遺物と木製品

西側調査区の南西部から中央部にかけて、トレンチ内の4ヵ所(a～d地点)において最下層から自然木と加工したと思われる木製品が確認された。標高約49mの地点で、出土した標高がほぼ同じであることから、同一時期のものと推定される。しかし、いずれの地点からも土器等の遺物は確認されなかった。



第40図 自然木分布図

##### ① a 地点

E-18～19グリッドに位置し、北西に向かって傾斜した地形に何層もの泥炭層が堆積しており、そのうちの非常に厚く堆積した層に埋もれるようにして、自然木の根・幹・枝・葉・木の実と、人工的に切断されたと思われる木の幹が確認された。なお、この幹については放射性炭素による年代測定等、科学的分析により詳細が判明すると思われる。

##### ② b 地点

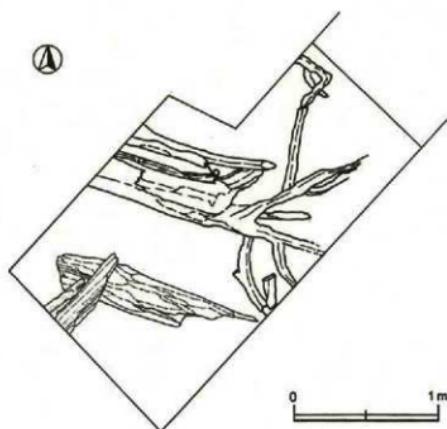
F～G-16グリッドに位置し、同一種と思われる木の枝が確認されてた。

##### ③ c 地点

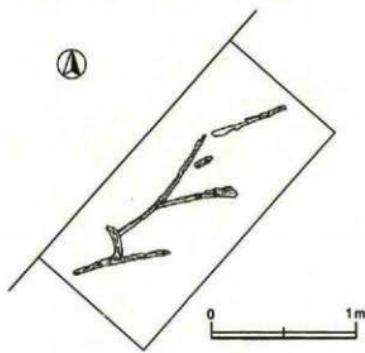
H-14～15グリッドに位置し、木の根・幹と、板状になった幹の部分が、北西から南東方向に横たわって確認された。

##### ④ d 地点

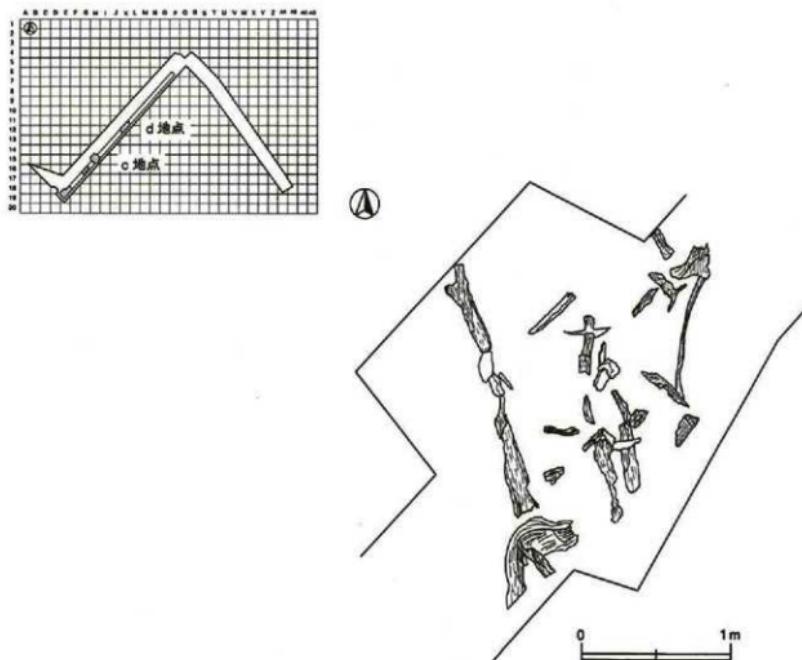
J-13グリッドに位置し、平坦な地形の部分に木の幹・根が張り巡らせた状況で残っており、トレンチ外の南北方向に延びていると思われる。いずれも木の組織はしっかりしている。



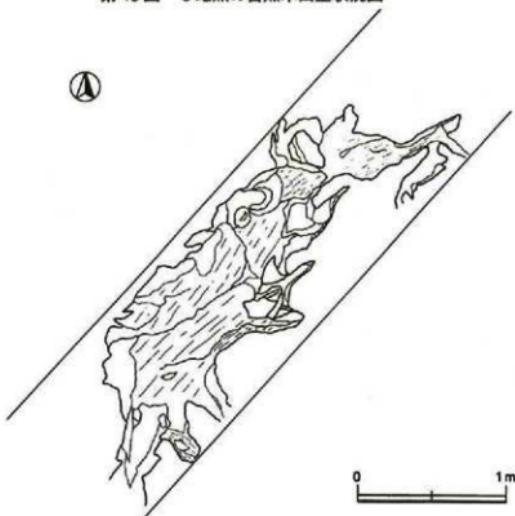
第41図 a 地点の加工痕のある木製品（左下）の出土状況図



第42図 b 地点の自然木出土状況図



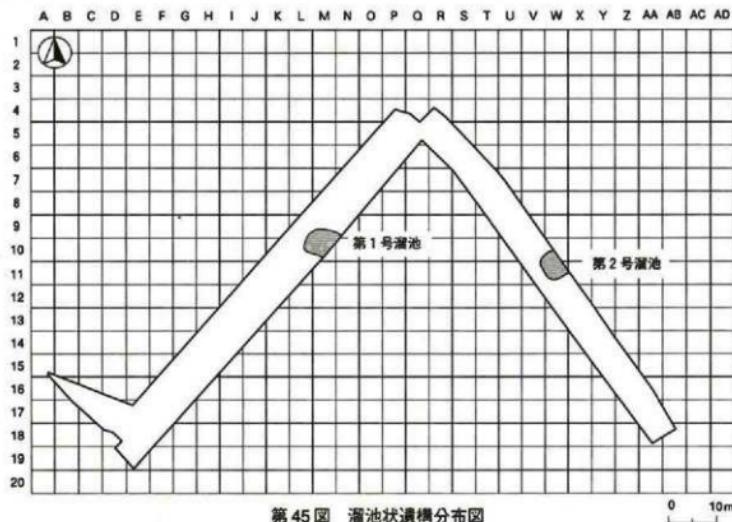
第43図 c地点の自然木出土状況図



第44図 d地点の自然木出土状況図

## (2) 溝池状遺構

東・西両調査区の中央部で1箇所づつ計2箇所の溝池状遺構が確認された。溝状遺構との切り合い関係や、層序からみて比較的新しい時代の遺構と思われる。遺物は他から流入したと思われる土器片が数点出土しているが、時期の確定はできない。なお、遺構の底部の土壤no科学的分析により溝池状遺構の用途など、詳細が判明すると思われる。

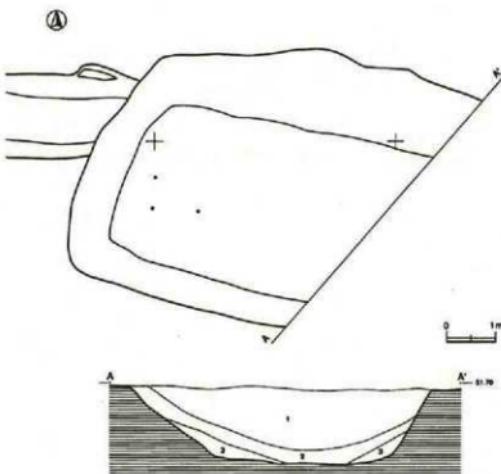


第45図 溝池状遺構分布図

## 第1号溝池状遺構

L～N - 9～10グリッドに位置し、西側で第5号溝を切っている。東側は調査対象区外に延びているため不明な点もあるが、確認された形から平面形状は、隅丸長方形を呈していると思われる。規模は南北方向の長さは約5.4m、確認できた東西方向の長さは約4.5m、深さは最深部で約1.5mある。覆土は3層に分けられ、第1層は明灰褐色土で締まりも粘性も共にやや強く炭化物を少量含んでいる。第2層は暗灰褐色土で締まりも粘性も共にやや強く炭化物を少量含んでいる。第3層は青灰色土で締まりも粘性も共に強く炭化物を少量含んでいる。主軸の方位はN-77°-Wを指している。遺構の北側に木杭が並んで確認されたが、杭の切断面等から判断すると土止めに使用した比較的新しい木杭と思われる。

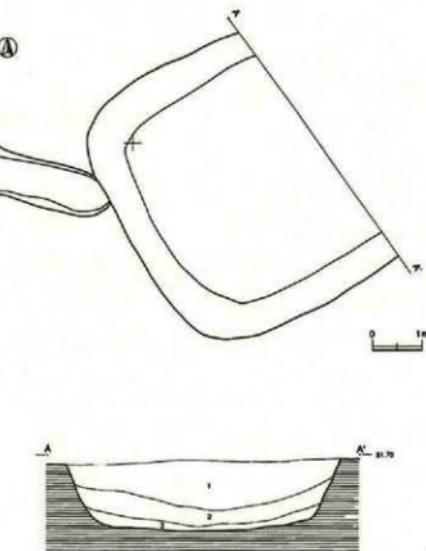
遺物は他から流入したと思われる土器の細片が3点出土している。



第46図 第1号溜池状遺構平・断面図および遺物分布図

## 第2号溜池状遺構

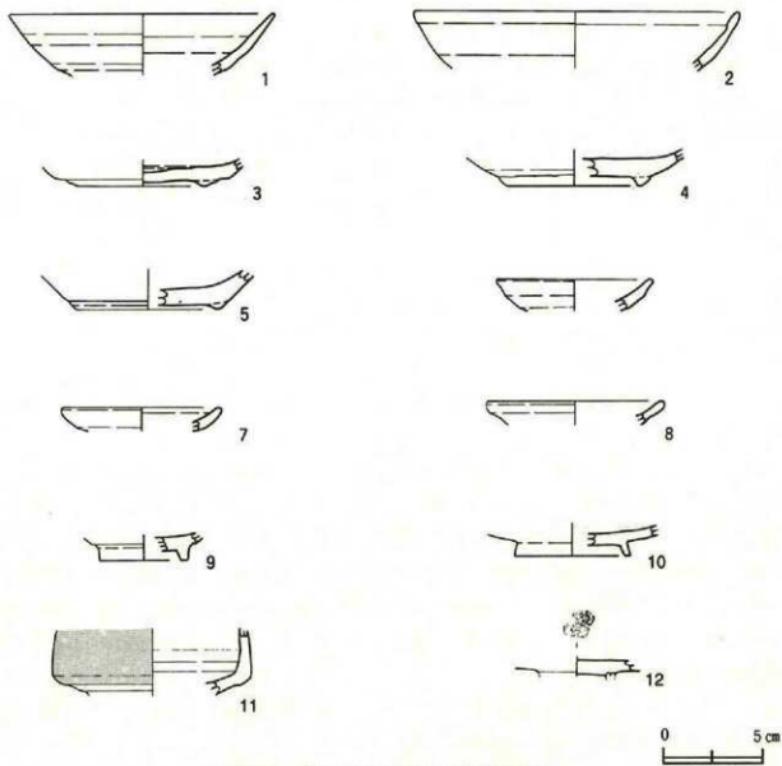
V-W-10~11グリッドに位置し、西側で第7号溝を切っている。東側は調査対象区外に延びているため不明な点もあるが、確認された形から平面形状は、隅丸長方形を呈していると思われる。規模は南北方向の長さは約5.8m、確認できた東西方向の長さは約4.3mで、深さは最深部で約1.4mある。覆土は3層に分けられ、第1層は明灰褐色土で締まりはやや強く粘性は強く炭化物を少量含んでいる。第2層は暗灰褐色土で締まりは強く粘性はやや強く炭化物を少量含んでいる。第3層は青灰色土で締まりも粘性も共に強く炭化物を少量含んでいる。主軸の方位はS-61°-Eを指している。遺物は確認されなかった。



第47図 第2号溜池状遺構平・断面図

## (3) 遺構以外から出土した遺物

## ① グリッドから出土した遺物



第48図 グリッドから出土した遺物実測図

1 (遺物 No.39) は I - 12 グリッドから出土した山茶碗の碗で、推定口径は 13.6 cm を測る。体部は直線的に開いて立ち上がる。内面はナデ調整、外面は強い横位のナデ調整が施される。胎土は黒・白色粒を微量に含み、色調は青灰色である。

2 (遺物 No.95) は I - 11 グリッドから出土した山茶碗の碗で、推定口径は 16.5 cm を測る。口縁部の内側は肥厚させる。内・外面ともナデ調整が施される。胎土は白色粒を少量含み、色調は灰色である。

3 (遺物 No.31) は I - 11 グリッドから出土した山茶碗の碗で、推定底径は 6.5 cm を測る。底部から緩やかに立ち上がる。内・外面ともナデ調整が施される。付け高台の断面形状は低く潰れた逆三角形で、高台を付けた後ナデ調整が施される。胎土は茶色粒を微量に含み、色調は灰褐色である。

4 (遺物No.56)はK-10グリッドから出土した山茶碗の碗で、推定高台径は6.9cmを測る。内・外面ともナデ調整が施され、底部に静止糸切痕が見られる。付け高台の断面形状は逆三角形を呈する。胎土は黒・白色粒を微量に含み、色調は灰白色である。

5 (遺物No.7)はK-10グリッドから出土した山茶碗の碗で、推定高台は7.2cmを測る。底部から直線的に開いて立ち上がる。内・外面ともナデ調整が施される。底部には回転糸切痕が見られ、付け高台の断面形状は低くつぶれた逆三角形である。高台を付けた後ナデ調整が施される。胎土は砂粒を少量含み、色調は灰色である。

6 (遺物No.2)はK-9グリッドから出土した小皿で、推定口径は8.0cmを測る。体部は内彎しながら短く立ち上がる。内・外面ともナデ調整が施される。胎土は白色粒を微量に含み、色調は灰色である。

7 (遺物No.28)はI-12グリッドから出土した小皿で、推定口径は8.2cmを測る。底部から短く立ち上がる。内面は灰白色的釉が施され、外面はナデ調整が施される。胎土は黒・白色粒を少量含み、色調は灰色である。

8 (遺物No.89)はI-13グリッドから出土した小皿で、推定口径は9.1cmを測る。内面は灰色の自然釉が付着し、外面はナデ調整が施される。胎土は白色粒を微量に含み、色調は灰色である。

9 (遺物No.145)はM-9グリッドから出土した大窯期の縁釉陶器の底部の破片で、推定高台径は4.5cmを測る。高台の断面形状は台形を呈する。底部内面に縁釉(オリーブ灰色)が施されている。胎土は砂粒・白色粒を少量含み、底部の外面の色調は灰白色である。

10 (遺物No.132)はK-12グリッドから出土した近世陶器の底部の破片で、推定高台径は5.9cmを測る。内・外面ともナデ調整が施されて、内面には土器の重ね焼き高台痕が残り、また黒色の鉄釉が施された痕跡も残る。高台は八字状に開く。胎土は茶・白色粒を少量含み、色調は灰黄色である。

11 (遺物No.141)はM-10グリッドから出土した大窯期の茶碗の破片で、推定最大径は10.1cmを測る。胎土は精緻で、色調は灰褐色である。

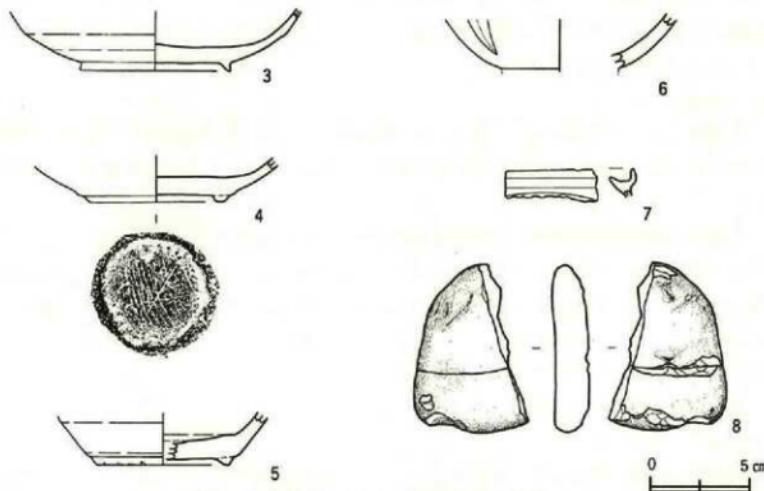
12 (遺物No.118)はM-9グリッドから出土した近世の染付皿の底部の破片である。内・外面とも明青灰色の釉が施され、内面には五弁花紋が描かれる。胎土は精緻である。

## ②排水溝から出土した遺物

調査区の周囲に排水溝を掘ったが、その際に出土した遺物の中で特徴のあるものを以下に示す。



第49図 排水溝から出土した遺物実測図(1)



第50図 排水溝から出土した遺物実測図(2)

1 (遺物 No. 排-1) は須恵器の壺蓋で、推定口径は 10.1 cm を測る。内・外面ともナデ調整が施される。胎土は黒色粒を少量含み、色調は灰白色である。

2 (遺物 No. 排-2) は山茶碗の碗で、推定口径は 14.9 cm を測る。体部はやや内彎しながら立ち上がる。内・外面ともナデ調整が施される。胎土は黒・白色粒を微量に含み、色調は灰白色である。

3 (遺物 No. 排-3) は山茶碗の碗で、推定高台径は 6.8 cm を測る。底部から緩やかに内彎しながら立ち上がる。内・外面ともナデ調整が施され、底部に粗粒痕が残る。高台の断面形状は低くつぶれた逆三角形を呈す。胎土は砂粒・白色粒を少量と石英を含み、色調は灰白色である。

4 (遺物 No. 排-4) は山茶碗の碗で、高台径は 6.5 cm を測る。内・外面ともナデ調整が施される。底部は静止糸切りされ、擬木葉痕が刻まれている。付け高台の断面形状は低く潰れた逆三角形を呈す。高台間に胎土は灰・白色粒を微量に含み、色調は青灰色である。

5 (遺物 No. 排-5) は山茶碗の碗で、高台径は 7.5 cm を測る。底部から内彎し、直線的に立ち上がる。内・外面ともナデ調整が施される。付け高台の断面形状は逆三角形を呈す。胎土は白色粒を微量に含み、色調は灰白色である。

6 (遺物 No. 排-6) は青磁の碗で、外面に蓮弁文がみられる。

7 (遺物 No. 排-7) は近世陶器の口縁部の破片で、外面に煤が付着する。受部はほぼ垂直に立ち上がり、口縁端部は内側にやや水平方向にのびる。胎土は黒色粒を微量含み、色調は灰白色である。

8 (遺物 No. 排-8) は砥石の破片で、砂岩製である。

## 第V章 発掘調査の成果と課題

今回の調査で確認された遺構は、溝状遺構が9条、穴状遺構のうち、土坑が3基、掘立柱建物跡が1棟、柱列が5列、板塀の跡が2列、ピットが97基で、その他に自然木群が4ヶ所、溜池状遺構が2ヶ所確認された。

### (1) 遺構

本遺跡においてはQグリッド以西（以下西地区）と以東（以下東地区）では層序の様子がかなり異なる。東地区は上層が削平されており、西地区に比べて堆積層の数がはるかに少ない。

東地区的遺構確認面の層が西地区的遺構確認面の下に急角度でもぐり込んでいるため、層序から判断すると東地区と西地区とでは時代が異なると思われるが、両地区的遺構確認面の標高がほとんど同じであること、元来、東地区に比べて標高の低かった西地区に幾層もの堆積があった後に、遺構が構築されたと考えられ、両地区的遺構から出土した遺物の状況からみても、ほとんど時代の隔たりはないと推定される。

今回の調査において、穴状遺構のプランは、シルト中で、覆土との違いを判断するのが非常に困難な状況であった。

掘立柱建物跡は西地区で1棟が想定され、その東側に布掘りの塀の跡（第1号板塀跡）が確認されている。掘立柱建物跡は布掘りの塀と主軸の方向がほぼ一致しており、関連する施設の可能性がある。第2号板塀の痕跡は、第1号板塀跡に切られており、第1号板塀より古い時代と想定される。また、主軸の方向・断面形状・覆土の状況等からみると第1号溝、第6号溝として扱った遺構も布掘りの可能性がある遺構である。

東地区的穴状遺構のうち、柱穴列として2列が確認されたが、調査区外での配列を加味すると1棟の掘立柱建物跡となる可能性がある。なお、遺物が確認されたピットがないので時代の推定は不可能である。

溝状遺構は9条が確認されている。西地区的溝状遺構は、主軸の方向にずれはあるものの、本調査内ではほぼ北西から南東に延びている。第4号溝以外では遺物はほとんど出土していない。第4号溝では覆土の上部で一部分から集中して遺物が出土しているが、須恵器・灰釉陶器・土師器・山茶碗などで、その他に青磁・白磁が出土している。また、土器の壊れ方や1部分に集中して出土していることから流入品とは考えにくく、その場所に廃棄された可能性があると思われる。

溜池状遺構は、第1号溜池状遺構の北側にあった木杭列の加工断面や覆土の状況等から、比較的新しい時代に構築されたものであると思われる。

### (2) 遺物

今回の調査で出土した遺物は出土量が少なく、しかも破片が多いため器種が特定できた遺物は少なかった。また、器種が特定できた遺物のほとんどは西地区的第4号溝状遺構から出土したもので、遺物は山茶碗の他に、須恵器・土師器・陶器・磁器に分類できる。

須恵器は坏蓋（遺物No.82）が出土しているが、口縁部に比較的長いかえりがあり、その特徴から古墳時代末頃と推定される。

山茶碗は、個体数は少ないが以下のような特徴がある。

1. 内彎しながら立ち上がるものと、直線的に開いて立ち上がっているものの2種類に分けられる。
2. 底部は回転糸切りした後に高台をナデ付けている。
3. 高台の断面形状は低い逆三角形を呈する。
4. 法量を見ると、内彎しながら立ち上がっている碗の口径は13~16.5cm、直線的に開いて立ち上がっている碗は15.9cmと16.5cm、器高は4~5cm前後である。
5. 胎土には黒・白色粒が微量に含まれるものが多く、色調は灰色・灰白色・青灰色を呈する。

小皿も個体数は少ないので、以下のような特徴がある。

1. 内彎しながら立ち上がっているものと、直線的に開いて立ち上がっているものの2種類に分けられる。
2. 法量を見ると、口径は7~10cmである。
3. 胎土には黒・白色粒が微量に含まれるものが多く、色調は灰色・灰白色・青灰色をしている。

以上の特徴から判断すると、碗・小皿は東遠江系山茶碗の特徴に一致するものがあり、12世紀後半から13世紀後半のものと思われる。

陶器は瀬戸・美濃焼の小皿（遺物No.353）、黒釉陶器（遺物No.141）、緑釉陶器（遺物No.145）が出土している。

磁器は排水溝から蓮弁紋のある青磁碗、第4号溝から白磁（遺物No.249）、底部の内面に五弁花紋の入った染付（遺物No.118）が出土している。このことから本遺跡の周辺に官衛等が存在していた可能性がある。

以上のことから、溝状造構・穴状造構は中世の、主に鎌倉時代を中心に構築された遺構と考えられ、溜池状造構は近世に構築された遺構だと考えられる。

その他、自然木に混じって加工痕のある木製品が1点出土したが、土器等の共伴遺物が全く出土していないため、現時点では時代の特定はできない。しかし、自然科学的な分析を行っているのでその分析結果が出た時点で時代が特定できると思われる。また、自然木群についても同様に科学的な分析結果を行っており、その結果は当時の地蔵堂遺跡周辺の古環境を知る手がかりになると思う。

### （3）今後の課題

発掘対象地区的面積がかぎられており、溝状造構・掘立柱建物跡・板塀の跡・溜池等いずれも発掘対象区外に伸びていると思われ、遺構の全容を調査できなかった点が大きな課題として残る。今後、遺跡の範囲など全体像が解明される機会を待ちたい。さらに下層で確認した自然木の中に加工痕のある木製品があり、本遺跡に隣接した地点に今回調査した時代より遡る遺構の存在が想定される。

## 参考文献

- ・(社)中部建設協会 1995『東海道小夜の中山』
- ・(財)静岡県埋蔵文化財研究所 1994『清水遺跡－平成五年度日坂バイパス埋蔵文化財調査概報』
- ・静岡県教育委員会編 静岡県文化財保存協会 1981『静岡県の中世城館跡』
- ・韭山町教育委員会 1995『伊豆韭山円成寺遺跡－御所之内遺跡第13次調査』
- ・掛川市教育委員会 1994『平成五年度 掛川市遺跡地図・地名表』
- ・松井 一明 「遠江における山茶碗生産について－遠江の山茶碗研究1－」 1993『静岡県考古学研究 No.25』所収
- ・静岡県教育委員会 1994『東海道』
- ・岩波書店 1973『明治以前日本土木史 土木學會編』

付表 遺物觀察表

付表 遺物観察表

遺物観察表の記載方法

図中No

図中番号は挿図に示した番号である。

遺物No

遺物番号は発掘時に記録した順番に付した番号である。

出土地点

遺物が出土した遺構名または出土した位置をいう。

種別・器種

器種については明確なものだけを記した。

法量

口縁部の径（口径）・器高・底部の径（底径）についての計測値で、単位はcmである。ただし推定値は（ ）に、計測が不可能なものは「-」で示してある。

形態

形態については特徴的なものだけを記した。

製作技法

製作技法・調整方法の特徴的なものを記した。

胎土

砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒等が含まれているものについて記した。なお、砂粒等をほとんど含まないものについては「精緻」と記した。焼成は良好・やや良の2段階で表現した。

色調

「新版標準土色帖」を判断の参考とした。

部位

土器片の部位を記した。

備考

接合情報・型式等を記した。

図中 No.	遺物 名	出土 地點	遺物 形態	主な 特徴	形態	製作技術	断面	風成	色調	断面	備考
1 82 1号塚	直筒 筒状	-	つば無し、ふちを丸く削ぎ、底盤が半球状で、口縁部は強く内折する。	-	内側底にモチテ調査。又は別の二箇所に斜め割れ、二つの連続性を強める。外側の自然剥離が見られる。	直筒 筒状	直筒	褐色 (Hue10Y)	直筒	最大径11.2cm	
1 88 2号塚	小器	(Hue4)	平底の底盤からやや内側にしながら立ち上る。口縁部はやや丸く折れる。	-	内側底にモチテ調査。底盤に引出物が斜め割れが見られる。	直筒 筒状	直筒	褐色 (Hue15Y)	直筒	-	
1 151 3号塚	陶器 錐体	(Hue1)	平底の底盤から直立して立ち上がる。	-	内側底にモチテ調査。内側にさほ基底の盛り目、外側にナマ調査。	直筒 錐体	直筒 錐体	褐色 (Hue7.5Y)	直筒錐片	-	
1 375 4号塚	山型 錐	(Hue4)	底盤から内側にしながら直立して立てる。口縁部はやや丸く折れる。	4.2 4.0 3.7	内側底にモチテ調査。底盤に引出物が切欠き、内側に直角折れの丸台形。ナリゲルヒーク式。	直筒 錐	直筒 錐	褐色 (Hue15Y)	直筒	380と合併	
2 277 4号塚	山型 錐	(Hue4)	底盤から内側にしながら直立して立てる。口縁部はやや丸く折れる。新規形に近い底盤から立ち上る。	4.0 3.7	内側底にモチテ調査。底盤に引出物が切欠き、底盤に引出物が斜め割れがある。底盤に引出物が斜め割れがある。	直筒 錐	直筒 錐	褐色 (Hue15Y)	直筒	-	
3 371 4号塚	山型 錐	(Hue4)	底盤から内側にしながら直立して立てる。口縁部はやや丸く折れる。新規形に近い底盤から立ち上る。付け高台の底盤部は斜め割れで、付つけがくさびた三等分構造。	7.0 6.7	内側底にモチテ調査。底盤に引出物が切欠き、底盤に引出物が斜め割れがある。底盤に引出物が斜め割れがある。	直筒 錐	直筒 錐	褐色 (Hue15Y)	直筒	17.5と合併	
4 233 4号塚	山型 錐	(Hue3)	底盤から内側にしながら立ち上る。高台の底盤部は斜め割れで、付つけがくさびた三等分構造。	6.3	内側底にモチテ調査。底盤に引出物が切欠き、底盤に引出物が斜め割れがある。底盤に引出物が斜め割れがある。	直筒 錐	直筒 錐	褐色 (Hue15Y)	直筒	219.55と合併	
5 251 4号塚	山型 錐	(Hue3)	底盤から内側にしながら立ち上る。付け高台の底盤部は斜め割れで、付つけがくさびた三等分構造。	4.6	内側底にモチテ調査。底盤に引出物が切欠き、底盤に引出物が斜め割れがある。底盤に引出物が斜め割れがある。	直筒 錐	直筒 錐	褐色 (Hue15Y)	直筒	259.385と合併	
6 182 4号塚	山型 錐	(Hue4)	底盤から内側にしながら直立して立てる。口縁部はやや丸く折れる。	4.5 4.0	内側底にモチテ調査。底盤に引出物が切欠き、底盤に引出物が斜め割れがある。底盤に引出物が斜め割れがある。	直筒 錐	直筒 錐	褐色 (Hue15Y)	直筒	1/2残存	
7 381 4号塚	山型 錐	(Hue4)	底盤から内側にしながら直立して立てる。口縁部はやや丸く折れる。	4.3 4.0	内側底にモチテ調査。底盤に引出物が切欠き、底盤に引出物が斜め割れがある。底盤に引出物が斜め割れがある。	直筒 錐	直筒 錐	褐色 (Hue15Y)	直筒	-	
8 204 4号塚	山型 錐	(Hue4)	底盤から内側にしながら直立して立てる。口縁部はやや丸く折れる。	4.5 4.0	内側底にモチテ調査。底盤に引出物が切欠き、底盤に引出物が斜め割れがある。底盤に引出物が斜め割れがある。	直筒 錐	直筒 錐	褐色 (Hue15Y)	直筒	完形	
9 269 4号塚	山型 錐	(Hue4)	底盤から内側にしながら立ち上る。口縁部はやや丸く折れる。	5.4	内側底にモチテ調査。外側は直・斜面にナマ調査。	直筒 錐	直筒 錐	褐色 (Hue15Y)	直筒	オーリーパーティカル (Hue3.5Y)	
10 243 4号塚	山型 錐	(Hue5)	底盤から内側に直立して立てる。口縁部は直ぐに内側に曲がる。	-	内側底にモチテ調査。口縁部に引出物が切欠き、底盤に引出物が斜め割れがある。	直筒 錐	直筒 錐	褐色 (Hue15Y)	直筒	口縁錐片	
11 264 4号塚	山型 錐	(Hue5)	底盤から内側に直立して立てる。口縁部は直ぐに内側に曲がる。	5.0	内側底にモチテ調査。外側は直・斜面にナマ調査。	直筒 錐	直筒 錐	褐色 (Hue15Y)	直筒	294と合併	
12 267 4号塚	山型 錐	(Hue5)	底盤から内側に直立して立てる。口縁部は直ぐに内側に曲がる。	5.0	内側底にモチテ調査。外側は直・斜面にナマ調査。	直筒 錐	直筒 錐	褐色 (Hue15Y)	直筒	254.355.356 と合併	
13 179 4号塚	山型 錐	(Hue5)	底盤から内側に直立して立てる。口縁部は直ぐに内側に曲がる。	5.0	内側底にモチテ調査。口縁部に引出物が切欠き、底盤に引出物が斜め割れがある。	直筒 錐	直筒 錐	褐色 (Hue15Y)	直筒	286.287と合併	
14 337 4号塚	山型 錐	(Hue5)	底盤から内側に直立して立てる。口縁部は直ぐに内側に曲がる。	5.0	内側底にモチテ調査。外側は直・斜面にナマ調査。	直筒 錐	直筒 錐	褐色 (Hue15Y)	直筒	-	
15 289 4号塚	山型 錐	(Hue5)	底盤から内側に直立して立てる。口縁部は直ぐに内側に曲がる。	5.0	内側底にモチテ調査。外側は直・斜面にナマ調査。	直筒 錐	直筒 錐	褐色 (Hue15Y)	直筒	-	
16 206 4号塚	山型 錐	(Hue4)	底盤から内側にしながら立ち上る。	-	内側底にモチテ調査。	直筒 錐	直筒 錐	褐色 (Hue15Y)	直筒	-	
17 241 4号塚	小器	2.3 3.8	半球の底盤から内側にしながら立ち上る。口縁部は直ぐに内側に曲がり、直立的に聞く。	-	内側底にモチテ調査。底盤に引出物が斜め割れがある。内側に凹みにはオーリーパーティカルの自然剥離がある。	直筒 錐	直筒 錐	褐色 (Hue15Y)	直筒	-	
18 284 4号塚	小器	8.9	半球の底盤から内側にかけて直立的に聞く。	-	内側底にモチテ調査。底盤に引出物が斜め割れがある。内側に凹みにはオーリーパーティカルの自然剥離がある。	直筒 錐	直筒 錐	褐色 (Hue15Y)	直筒	-	
19 299 4号塚	小器	8.0	半球の底盤から内側にしながら立ち上る。	-	内側底にモチテ調査。底盤に引出物が斜め割れがある。	直筒 錐	直筒 錐	褐色 (Hue15Y)	直筒	40と合併	
20 276 4号塚	小器	(Hue4) (Hue5)	半球の底盤から内側にしながら立ち上る。口縁部はえくぼである。	-	内側底にモチテ調査。底盤に引出物が斜め割れがある。	直筒 錐	直筒 錐	褐色 (Hue15Y)	直筒	1/2残存	
21 261 4号塚	土器	4.5	半球の底盤から直立する。	-	内側底にモチテ調査。底盤に引出物が斜め割れがある。	直筒 錐	直筒 錐	褐色 (Hue15Y)	直筒	直筒のみ	
22 189 4号塚	灰陶器 錐	-	しほり痕が見られる。	-	内・外側ともモチテ調査。	直筒 錐	直筒 錐	褐色 (Hue15Y)	直筒	直筒	
23 228 4号塚	灰陶器 錐	-	-	-	内側底にモチテ調査を施し、有縫部が見られる。	直筒 錐	直筒 錐	褐色 (Hue15Y)	直筒	-	
24 246 4号塚	かわらけ	13.1 13.6	やや厚みのある平底の底盤。	-	内側底にモチテ調査。外側はハケメ調査、底盤に引出物が斜め割れがある。	直筒 錐	直筒 錐	褐色 (Hue15Y)	直筒	13と合併	
25 209 4号塚	かわらけ	3.7 3.6	平底の底盤から腰やかに内側にしながら立ち上る。	-	内側底にモチテ調査。底盤のたわみが見られる。	直筒 錐	直筒 錐	褐色 (Hue15Y)	直筒	-	
26 229 4号塚	かわらけ	(1.2) (2.5)	平底の底盤から直立して立てる。口縁部はえくぼである。	-	内側底にモチテ調査。底盤に引出物が斜め割れがある。	直筒 錐	直筒 錐	褐色 (Hue15Y)	直筒	1/2残存	
27 302 4号塚	かわらけ	7.0	平底の底盤。	-	内側底にモチテ調査。	直筒 錐	直筒 錐	褐色 (Hue15Y)	直筒	-	
28 226 4号塚	かわらけ	3.7 3.6	平底の底盤から腰やかに内側にしながら立ち上る。	-	内側底にモチテ調査。	直筒 錐	直筒 錐	褐色 (Hue15Y)	直筒	-	
29 238 4号塚	かわらけ	(2.3)	-	-	内・外側ともモチテ調査。	直筒 錐	直筒 錐	褐色 (Hue15Y)	直筒	-	
30 333 4号塚	白陶 小器	(1.0) (2.7)	半球の底盤からやや内側にしながら立ち上る。口縁部はやや内側にする。	-	内側底にモチテ調査を施し、有縫部が見られる。	直筒 錐	直筒 錐	褐色 (Hue15Y)	直筒	直筒のみ	
31 249 4号塚	白陶 錐	(1.7) (2.5)	腰やかに内側にしながら立ち上る。口縁部はやや内側にする。	-	内・外側ともモチテ調査。	直筒 錐	直筒 錐	褐色 (Hue15Y)	直筒	-	
1 421 7号塚	灰陶器 平底	(3.2)	やや内側にしながら立ち上る。	-	内・外側ともモチテ調査。	直筒 錐	直筒 錐	褐色 (Hue15Y)	直筒	直筒錐片	

## 付表 遺物観察表

箇 号 No.	遺 物 名 称 No.	出土 地 点 No.	標 記 符 号 No.	性 質 No.	形態	動作経 過	施上	造成	色調	部位	備考	
1 408	新石器時代 山地縄文 陶器	新石器時代 山地縄文 陶器	-	3.7	底面から縦やかに内側しながら立ち上がり、付け合いで底面の断面形状は低い三角形。	内・外面ともナマ調査。底面に凹凸が複数個見られ、両面に付いた模様ナマ調査。	縫合、底、白色及 少黒合。	灰	黒白色 (Hue3)	3/4現存		
2 104	新石器時代 住居跡	小出	-	6.5	底面からやかに内側しながら立ち上がり、内・外面ともナマ調査。底面に凹凸が複数個見られる。	赤褐色、白色及 少黒合。	灰	黑色 (Hue7.3Y)	2/3現存			
3 428	新石器時代 住居跡	小出	-	4.2	口縁部、つまみ状突起、底子等不規則な形を呈する。	内面ナマ調査、外表面へうつり。	白色及 少黒合。	灰	黑色 (Hue3Y)	漆器破片		
4 412	新石器時代 住居跡	坪原	-	-	底面から縦やかに内側しながら立ち上がり、内・外面ともナマ調査。	黑、系、白色及 少黒合。	灰	灰白色 (Hue7.3Y)	1/2現存			
5 427	新石器時代 住居跡	小出	(9.5)	6.5	(2.1)	底面から縦やかに内側しながら立ち上がり、内・外面ともナマ調査。	少黒合。	灰	灰白色 (Hue7.3Y)	1/2現存		
6 428	新石器時代 住居跡	坪原	-	4.2	-	内・外面、口縁部は灰褐色で灰焼している。	内・外面ともナマ調査。	白色及 少黒合。	灰	黑色 (Hue3)	漆器破片 確定最大径 11.2cm	
7 39	山地縄文	112	(13.6)	-	底面は直線的に突いて立ち上がる。	内面ナマ調査、外表面は凹凸したナマ調査、底面に自然剥がれを呈する。	黒褐色、白色及 少黒合。	灰	青灰色 (Hue3)	口縫部 ~ 半径		
8 95	山地縄文	111	(16.5)	-	山地縄文を内側に配置させる。	内・外面ともナマ調査。	白色及 少黒合。	灰	黑色 (Hue3)	口縫部 ~ 半径		
9 31	山地縄文	112	(16.5)	-	底面から縦やかに内側しながら立ち上がり、内・外面ともナマ調査。底面は高台を基とし、高台の内側に底面が付いた三角形。	茶褐色、白色及 少黒合。	灰	灰褐色 (Hue7.3Y)	底板	100と漆合		
10 56	K10	山地縄文	(6.5)	-	-	内・外面ともナマ調査。底面内側に底面と高台が重なる。	白色及 少黒合。	灰	灰白色 (Hue7.3Y)	底板		
11 7	K10	山地縄文	(7.2)	-	底面から直線的に突いて立ち上がる。	内・外面ともナマ調査。底面内側に底面と高台が重なる。	白色及 少黒合。	灰	黑色 (Hue3)	口縫部 ~ 半径		
12 2	K9	小出	(8.0)	-	底面が灰褐色で、口縁部は底面と高台が重なる。	内・外面ともナマ調査。	白色及 少黒合。	灰	黑色 (Hue3)	口縫部 ~ 半径		
13 28	K12	小出	(8.0)	-	底面から立ち上がり、口縁部は太く丸められた三角形。	内・外面ともナマ調査。内面は底面と高台が重なる。	黑色及、白色及 少黒合。	灰	灰白色 (Hue7.3Y)	口縫部 ~ 半径		
14 39	K13	小出	(9.5)	-	口縁部は丸めする。	内面に白熱點が付着し、外表面はナマ調査。	白色及 少黒合。	灰	黑色 (Hue3)	口縫部 ~ 半径		
15 145	M09	縄織陶器	-	-	高台の断面形状は凸形。	底面内側に縫合。	翠羽、白色及 少黒合。	灰	黒白色 (Hue3)	底板	大漆刷	
16 132	K12	高台	(5.5)	-	底面から直線的に突いて立ち上がる。	内・外面ともナマ調査。底面内側に底面と高台が重なる。	黑色及、白色及 少黒合。	灰	灰褐色 (Hue7.3Y)	底板		
17 144	M10	高台	-	-	高台を突起。	内・外面ともナマ調査。外表面側に黒焼が見られる。	漆糊	灰	灰褐色 (Hue7.3Y)	漆器破片	大漆刷	
18 118	M10	高台	-	-	高台を突起。	内・外面ともナマ調査。底面内側に底面と高台が重なる。	漆糊	灰	灰白色 (Hue3)	漆器破片		
19 18	漆水滴	坪原	-	-	天井出現。	口口成形。天井部は圓錐形へうつり。内・外面ともナマ調査。	黑色及 少黒合。	灰	黑色 (Hue3)	口縫部 ~ 天井部		
20 18	漆水滴	山地縄文 陶器	(14.5)	-	底面は立ち上がり、口縁部は底面と高台が重なる。	内面は底面のナマ調査、外表面は底、側面のナマ調査。	白色及 少黒合。	灰	灰白色 (Hue7.3Y)	口縫部 ~ 半径		
21 3	漆水滴	山地縄文	(5.5)	-	底面はやかに内側しながら立ち上がる。	内面は底面のナマ調査、底面に凹凸が複数個見られる。	白色及 少黒合。	灰	黑色 (Hue3Y)	漆糊		
22 4	漆水滴	山地縄文	6.5	-	底面はやかに内側ながら立ち上がる。	内・外面ともナマ調査。底面は厚底正三角形、奥木底張を附す。	白色及 少黒合。	灰	黑色 (Hue3)	底板のみ		
23 5	漆水滴	山地縄文	7.5	-	底面はやかに内側ながら立ち上がる。	内面は底面のナマ調査、底面に凹凸が複数個見られる。	白色及 少黒合。	灰	黑色 (Hue3)	漆糊		
24 6	漆水滴	高台	-	-	底面から立ち上がり。	内面に底面がみられる。	漆糊	-	オリーブ灰色 (Hue3.5Y)	漆器破片		
25 7	漆水滴	高台	-	-	底面は天井部だけ立ち上がる。	内・外面ともナマ調査。底面に底面が付く。	黑色及 少黒合。	灰	黑色 (Hue3Y)	口縫部破片		
26 8	漆水滴	底板	-	-	-	-	-	-	-	漆糊		

## **写真図版**





1. 遺跡の全景



2. 第1号溝





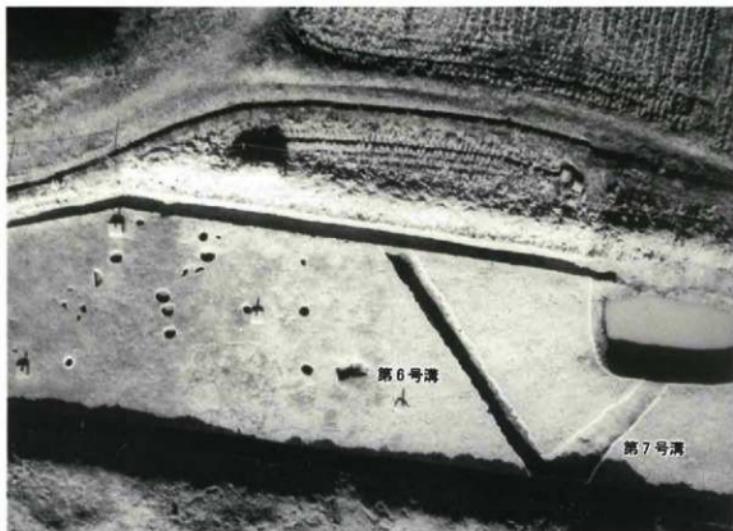
3. 第3・4・5・9号溝・第1号溜池



4. 第4号溝遺物出土状況



5. 第6・7号溝 6. 第1号掘立柱建物跡・第1号・2号板塙跡

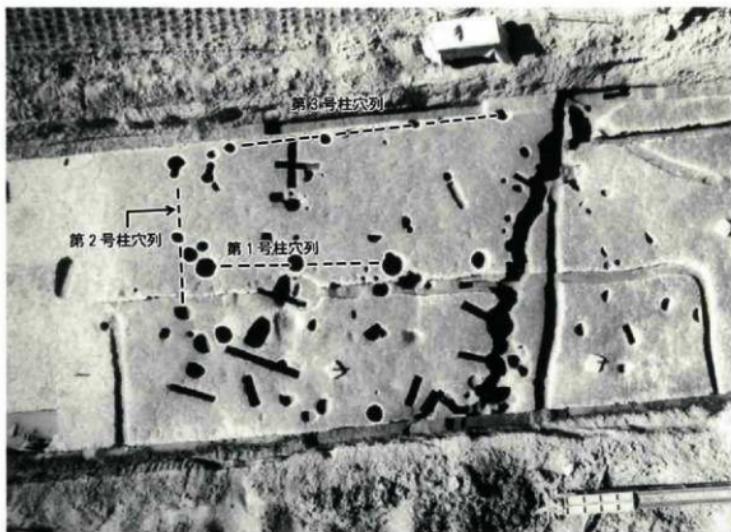


5. 第6・7号溝

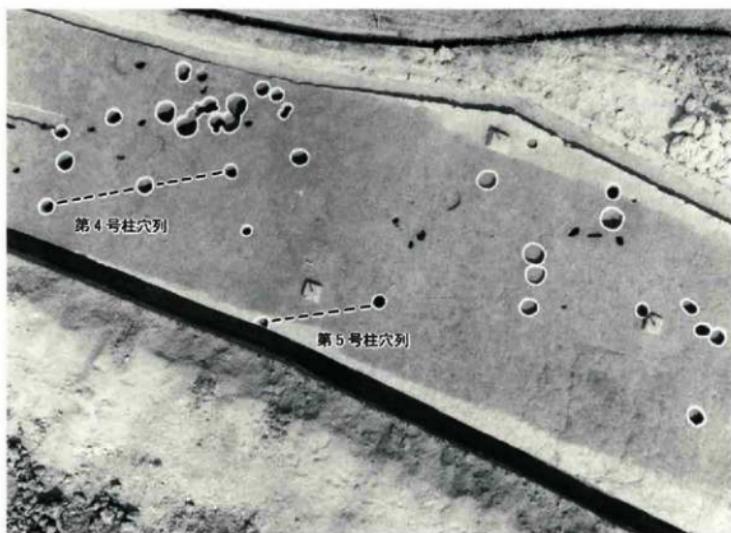


6. 第1号掘立柱建物跡・第1号・2号板塙跡





7. 第1~3号柱穴列

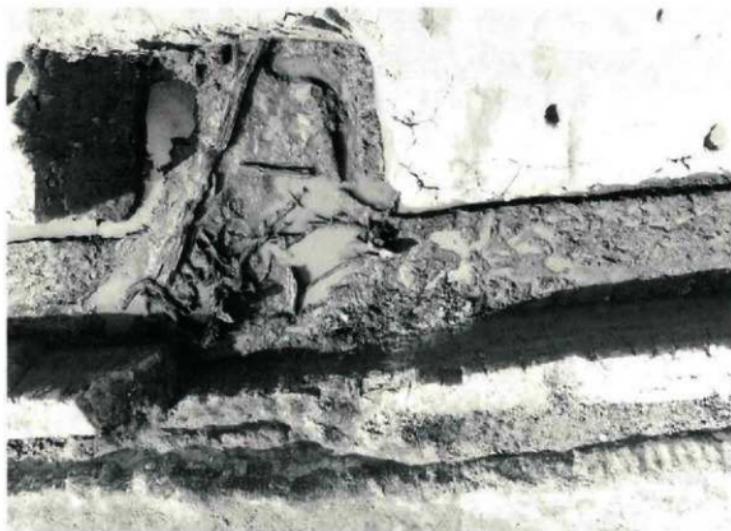


8. 第4·5号柱穴列





9. 自然木出土状況（a 地点）



10. 自然木出土状況図（c 地点）



11. 第1号溝出土遺物 12. 第2号溝出土遺物 13. 第3号溝出土遺物 14. 第4号溝出土遺物 (1)



1

11. 第1号溝出土遺物



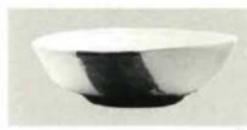
1

12. 第2号溝出土遺物



1

13. 第3号溝出土遺物



1



2



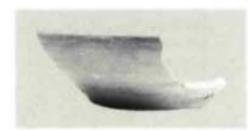
3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



18



19

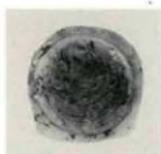


20

14. 第4号溝出土遺物 (1)



15. 第4号溝出土遺物 (2) 16. 第1号掘立柱出土遺物 17. 第2号板堀跡出土遺物 18. グリッド出土遺物 19. 排水溝出土遺物



21



22



23



25



28



29



30



31

15. 第4号溝出土遺物 (2)



1



2



3

16. 第1号掘立柱出土遺物



1



2



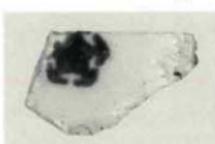
9



10



11



12

18. グリッド出土遺物



1



2



4



5



6



9

19. 排水溝出土遺物



## 報告書抄録

ふりがな	じぞうどういせき はっくつちょうさはうこくしょ							
書名	地蔵堂遺跡発掘調査報告書							
調書名	農地総合開発整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名					シリーズ番号			
編著者名	前田庄一・片平剛・小谷亮二							
編集機関	静岡人類史研究所							
所在地	〒422 静岡市高松二丁目10-17 TEL054-237-7637							
発行年月日	西暦1995年3月25日							
所取遺跡名	所在地	コード		北緯 度分秒	東経 度分秒	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
じぞうどういせき 地蔵堂遺跡	しづおかけん かけがねし 静岡県掛川市 やさかあざみやのまえ 八坂字宮ノ前672-2外	22213	502	34° 47' 41"	138° 4' 41"	1994年 11月14日～ 1995年 2月28日	1,780	農地総合開発 事業に伴う事 前調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
地蔵堂遺跡	集落跡	古墳時代 奈良・平安 ～鎌倉時代	溝状遺構9条 掘立柱建物1棟 ビット98基			山茶碗・陶器・磁器 須恵器・土師器		

平成7年3月25日 発行

静岡県掛川市

### 地蔵堂遺跡発掘調査報告書

編集：静岡人類史研究所

〒422 静岡市高松二丁目10-17

TEL 054-237-7637

発行：掛川市教育委員会

〒436 掛川市水垂51番地

TEL 0537-24-7773

印刷：有限会社 文書サービス



